

男女共同参画についての 女性医師の意識調査報告書

平成27年12月

千葉県医師会男女共同参画推進委員会

は じ め に

千葉県医師会では、約5年ごとに女性医師の意識・実態調査を行い、検討を行ってきましたが、今回平成27年1月に施行した調査結果をまとめましたので、ご報告します。「またアンケート調査」と、うんざりした諸姉もおられると存じますが、まとめてみますと興味深く、示唆に富んだ結果が得られました。

今回の調査は日本医師会で平成26年に行われた「男女共同参画についての男性医師の意識調査報告書」と比較してみました。男性と女性の労働環境や意識の差を明らかにし、今後の活動に生かせるのではないかと思います。調査では過去の設問を踏襲しつつも、新たな内容を加えておりますが、今回は職場・家庭でのハラスメントについて設問を設けました。他調査との比較はしていませんが、興味深い結果を得ております。

女性医師が働き続けるためのシステム作りが始まってから、わが国の医師の労働環境は徐々に改善してきました。男女問わず、職場環境の改善が就労支援につながることもわかってきたのです。しかし今なお医師は、他の先進国にくらべて、長時間労働など過酷な状況におかれています。特に人口対医師数が少ない千葉県では、医師のワークライフバランスは喫緊の課題といえます。

近年の女性医師数の増加は目覚ましく望ましいことですが、妊娠・出産を含め、女性特有の人生のあり方を視野にいたした対策が必要です。それには女性医師を単に労働力としてではなく、ひとりの人間として自己実現も視野に入れることが必要です。

本調査で得られた結果を、今後の委員会活動に反映し、女性医師が働き続けるための手助けをしてまいりたいと思います。

ご回答をお寄せくださいました女性医師の皆様、また調査比較を了解いただいた日本医師会の関係者の皆様に感謝申し上げます。

平成27年12月

千葉県医師会男女共同参画推進委員会

委員長 大川 玲子

千葉県医師会男女共同参画推進委員会

委員長 大川 玲子 専門委員

副委員長 朝比奈 真由美 //

// 伊賀 恵美子 君津木更津（医療圏）

委員 大野 ますみ 千葉（医療圏）

// 本橋 尚子 東葛南部（医療圏）

// 長瀬 慈村 東葛北部（医療圏）

// 土井 靖子 印旛（医療圏）

// 林 文 香取海匝（医療圏）

// 米田 洋子 山武長生夷隅（医療圏）

// 吉澤 瑛子 安房（医療圏）

// 大倉 龍子 市原（医療圏）

// 大野 京子 専門委員

// 高岡 和美 専門委員

千葉県医師会副会長 森本 浩司

千葉県医師会理事 日比野 久美子

// 穴倉 朋胤

// 松岡 かおり

目 次

1. 調査の概要	1
2. 分析結果	2
I ご自身について	2
II 勤務先・勤務状況について	4
III ワークライフバランスについて	12
IV ハラスメントについて	16
V 家庭での家事分担について	22
VI 介護について	25
VII 育児について	27
VIII 男女共同参画社会に関する意識について	32
IX 自由意見	36
3. 考 察	42
4. 活動方針	47
5. 集計表（男女比較）	48
男女共同参画についての女性医師の意識調査 調査票	61

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

女性医師が生涯、医師として働き続けるために、仕事と家庭の両立、病院における支援策、女性医師の離職防止や、定着促進に関する意識等について、全県的な調査を行った。

なお、調査票は、日本医師会で行われた【男女共同参画についての男性医師の意識調査】※を参考に作成した。

※日本医師会【男女共同参画についての男性医師の意識調査報告書】（平成26年2月公表）

日本医師会HP→医師のみなさまへ→女性医師

【男女共同参画についての男性医師の意識調査】

<http://dl.med.or.jp/dl-med/female/men201402.pdf>

(2) 調査対象

千葉県医師会女性医師会員（647人）及び病院施設74施設（1254人）に調査票を送付し、幅広い年齢層の女性医師に回答を依頼した。

(3) 調査期間

平成27年1月23日に発送し、同年2月13日を締切とした。

(4) 回収率・有効回答率

656人から回答を得て、回収率は34.5%であった。

※設問ごとの有効回答数は異なる。

2. 分析結果

※回答者数を合わせるため、無回答者も含めて656人で人数を統一した。

I ご自身について

I-1) 年齢

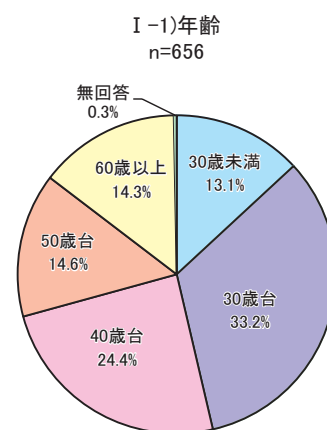
全回答者656人のうち、年齢に対する質問に回答があったのは654人であり、最も多いのは「30歳台」の218人（33.2%）で、次いで「40歳台」が160人（24.4%）となった。なお、「30歳台」と「40歳台」の合計378人（57.8%）が回答者の半数を超えた。

なお、全回答者の656人は、千葉県全体の女性医師数（2,034人）の32%にあたる。

（参考：千葉県庁HP 千葉県発表「平成24年医師・歯科医師・薬剤師調査の概況」

（https://www.pref.chiba.lg.jp/kenshidou/toukeidata/kakushukousei/24_ishi.html）

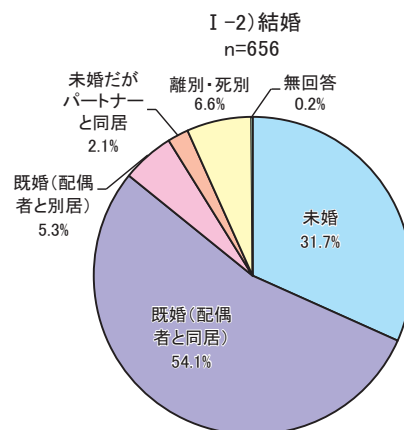
	実数	比率	平成24年 千葉県女性医師数	回答者割合 (%)
1 30歳未満	86	13.1	328	26.2
2 30歳台	218	33.2	713	30.6
3 40歳台	160	24.4	480	33.3
4 50歳台	96	14.6	273	35.2
5 60歳以上	94	14.3	240	39.1
無回答	2	0.3		
総 数	656	100.0	2034	32.2



I-2) 結婚について

全回答者656人のうち、結婚についての回答があったのは655人で、「既婚」（配偶者と同居・別居）の390人（59.5%）が半数を超えている。

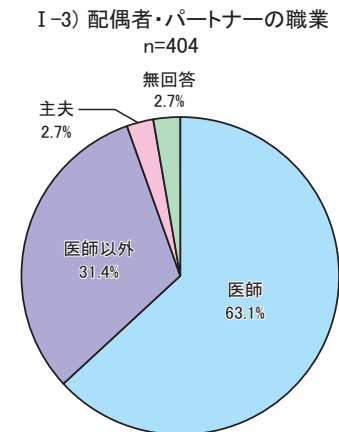
	実数	比率
1 未婚	208	31.7
2 既婚（配偶者と同居）	355	54.1
3 既婚（配偶者と別居）	35	5.3
4 未婚だがパートナーと同居している	14	2.1
5 離別・死別	43	6.6
無回答	1	0.2
総 数	656	100.0



I-2) 配偶者・パートナーの職業

「既婚（配偶者と同居）」（355人）及び「既婚（配偶者と別居）」（35人）、「未婚だがパートナーと同居」（14人）と回答のあった404人のうち、「配偶者・パートナーの職業」について回答があったのは393人で、そのうち、63.1%（255人）の回答が「医師」だった。

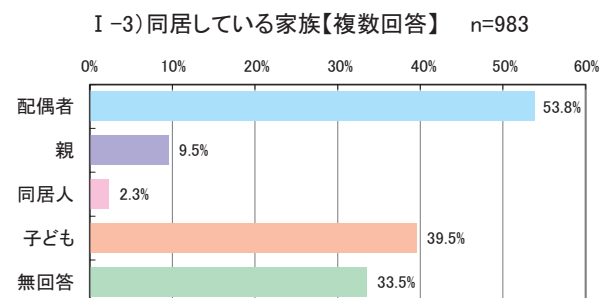
	実数	比率
1 医師	255	63.1
2 医師以外	127	31.4
3 主夫	11	2.7
無回答	11	2.7
総 数	404	100.0



I-3) 同居している家族【複数回答】

全回答者656人のうち、同居している家族について回答があったのは436人（複数回答あり）で、「配偶者」が353人（53.8%）と半数を超え、次に「子ども」が259人（39.5%）となった。なお、無回答者の220人（33.5%）は、単身者の解答欄がなかったことから、単身者を含むと思われる。

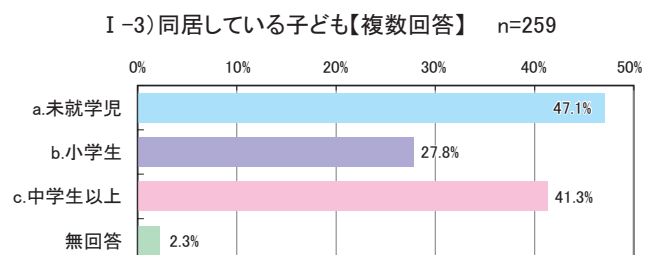
	実数	比率
1 配偶者	353	53.8
2 親	62	9.5
3 同居人	15	2.3
4 子ども	259	39.5
無回答	220	33.5
総 数	656	



I-3) 同居している子どもの有無について【複数回答】

子どもと同居と回答した259人のうち、子どもの有無について回答があったのは253人（複数回答あり）で、「未就学児」が122人（47.1%）と約半数、次いで「中学生以上」が107人（41.3%）となった。

	実数	比率
1 a. 未就学児	122	47.1
2 b. 小学生	72	27.8
3 c. 中学生以上	107	41.3
無回答	6	2.3
総 数	259	



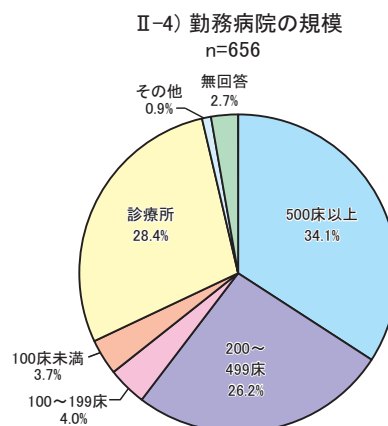
※人数の記載が無く、「あり」「いる」と回答しているケースがあるため有無で集計しています。

Ⅱ 勤務先・勤務状況について

Ⅱ－４）勤務病院の規模

全回答者656人のうち、勤務病院の規模について回答があったのは638人で、「500床上」と回答した人が最も多く、224名（34.1%）だった。次いで、「診療所」186人（28.4%）、「200～499床」172人（26.2%）となっている。

	実数	比率
1 500床以上	224	34.1
2 200～499床	172	26.2
3 100～199床	26	4.0
4 100床未満	24	3.7
5 診療所（※）	186	28.4
6 その他	6	0.9
無回答	18	2.7
総 数	656	100.0

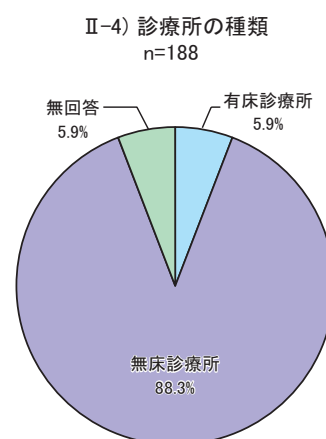


元々の選択肢は1～5ですが、複数記載している3例、「大学」「保健所」「勤務していない」と回答した計6人を「その他」としています。

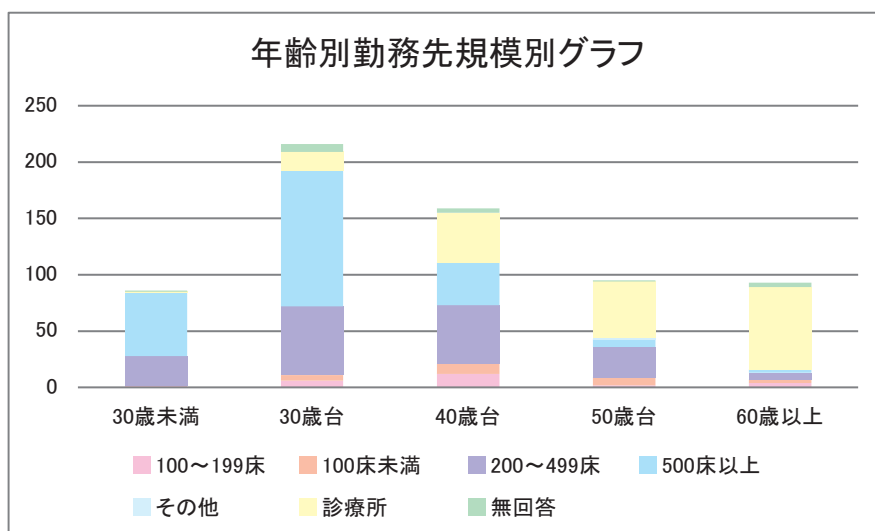
※「5 診療所」の種類

診療所と回答した186人のうち、無床診療所が166名（89.2%）と大部分を占めた。

	実数	比率
1 有床診療所	11	5.9
2 無床診療所	166	89.2
無回答	9	4.8
総 数	186	100.0



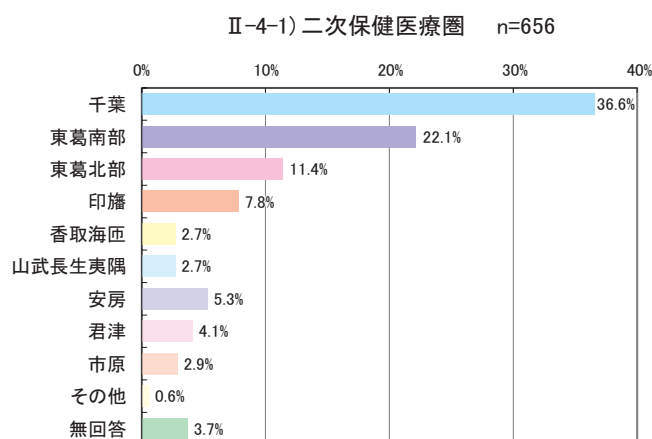
参考) 年齢と勤務先病院の規模をクロス集計したところ、勤務医が多いと思われる40歳以下の勤務病院の規模として、「500床以上」が目立った。



Ⅱ－４－１) 病院のある二次保健医療圏

全回答者656人のうち、病院のある二次医療圏について回答があったのは632人で、「千葉」が240人（36.6%）と最も多く、次いで東葛南部の145人（22.1%）であった。

	実数	比率
1 千葉	240	36.6
2 東葛南部	145	22.1
3 東葛北部	75	11.4
4 印旛	51	7.8
5 香取海匝	18	2.7
6 山武長生夷隅	18	2.7
7 安房	35	5.3
8 君津	27	4.1
9 市原	19	2.9
10 その他	4	0.6
無回答	24	3.7
総 数	656	100.0

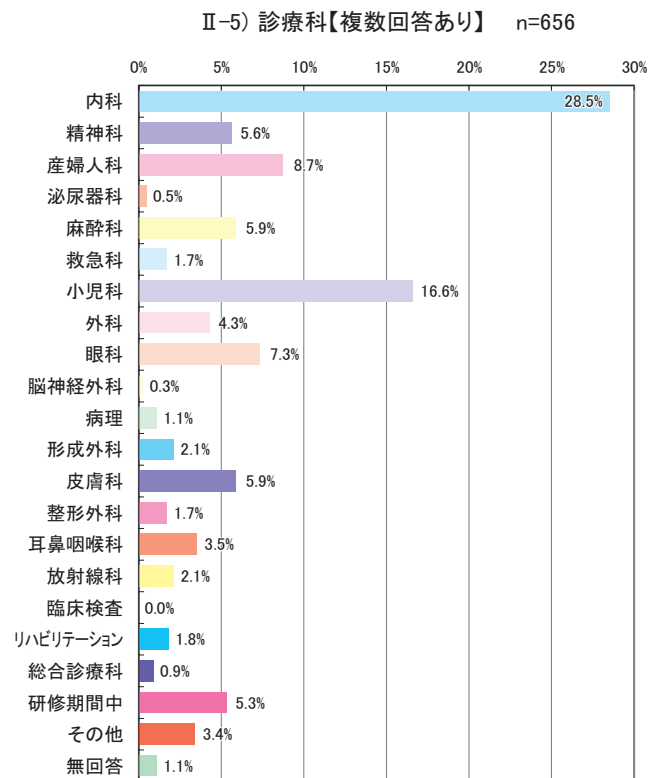


元々の選択肢は1～9ですが、複数記載している2例、「東京都」「該当なし」と回答した計4人を「その他」としています。

Ⅱ－５） 診療科【複数回答あり】

全回答者656人のうち、診療科について回答があったのは649人（複数回答あり）で、「内科」が最も多く187人（28.5%）、次いで「小児科」の109人（16.6%）と続いているが、「内科」及び「小児科」以外は、10%を超える診療科はなかった。

	実数	比率
1 内科	187	28.5
2 精神科	37	5.6
3 産婦人科	57	8.7
4 泌尿器科	3	0.5
5 麻酔科	39	5.9
6 救急科	11	1.7
7 小児科	109	16.6
8 外科	28	4.3
9 眼科	48	7.3
10 脳神経外科	2	0.3
11 病理	7	1.1
12 形成外科	14	2.1
13 皮膚科	39	5.9
14 整形外科	11	1.7
15 耳鼻咽喉科	23	3.5
16 放射線科	14	2.1
17 臨床検査	0	0.0
18 リハビリテーション	12	1.8
19 総合診療科	6	0.9
20 研修期間中	35	5.3
21 その他	22	3.4
無回答	7	1.1
総 数	656	

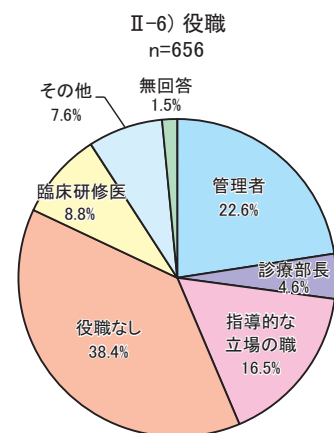


複数回答者がいるので複数選択可として集計しています。

Ⅱ－６）役職

全回答者656人のうち、役職について回答があったのは646人で、「役職なし」が最も多く252人（38.4%）、次に「管理者」148人（22.6%）、「指導的な立場の職」108人（16.5%）と続いている。

	実数	比率
1 管理者	148	22.6
2 診療部長	30	4.6
3 指導的な立場の職	108	16.5
4 役職なし	252	38.4
5 臨床研修医	58	8.8
6 その他	50	7.6
無回答	10	1.5
総 数	656	100.0

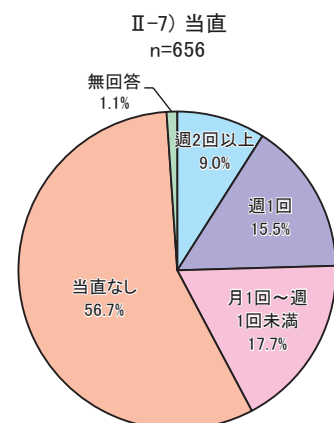


「指導的な立場の職」、「その他」では具体的記入欄がありますが、同じ記載でも人により3であったり6であったりしますが、選択された数字どおりに集計してあります。

Ⅱ－７）当直

全回答者656人のうち、当直について回答があったのは649人で、「当直なし」が最も多く372人（56.7%）、次に「月1回～週1回未満」116人（17.7%）、「週1回」102人（15.5%）と僅差で続いている。

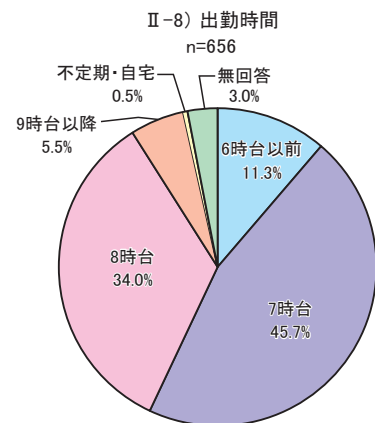
	実数	比率
1 週2回以上	59	9.0
2 週1回	102	15.5
3 月1回～週1回未満	116	17.7
4 当直なし	372	56.7
無回答	7	1.1
総 数	656	100.0



Ⅱ－８）出勤時間

全回答者656人のうち、出勤時間について回答があったのは636人で、「7時台」が最も多く300人（45.7%）、次に「8時台」223人（34%）と続き、「7時台」と「8時台」で79.7%を占めた。
なお、出勤時間は「自宅を出る」時間としてお答えいただいた。

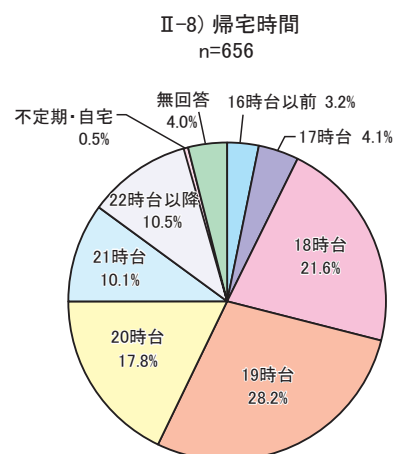
	実数	比率
1 6時台以前	74	11.3
2 7時台	300	45.7
3 8時台	223	34.0
4 9時台以降	36	5.5
5 不定期・自宅	3	0.5
無回答	20	3.0
総 数	656	100.0



Ⅱ－８）帰宅時間

全回答者656人のうち、帰宅時間について回答があったのは630人で、「19時台」が最も多く185人（28.2%）、次に「18時台」142人（21.6%）、「20時台」117人（17.8%）と続いた。「18時台」～「20時台」で67.6%を占めているが、「22時台以降」も10.5%いた。
なお、帰宅時間は「自宅に到着する」時間としてお答えいただいた。

	実数	比率
1 16時台以前	21	3.2
2 17時台	27	4.1
3 18時台	142	21.6
4 19時台	185	28.2
5 20時台	117	17.8
6 21時台	66	10.1
7 22時台以降	69	10.5
8 不定期・自宅	3	0.5
無回答	26	4.0
総 数	656	100.0



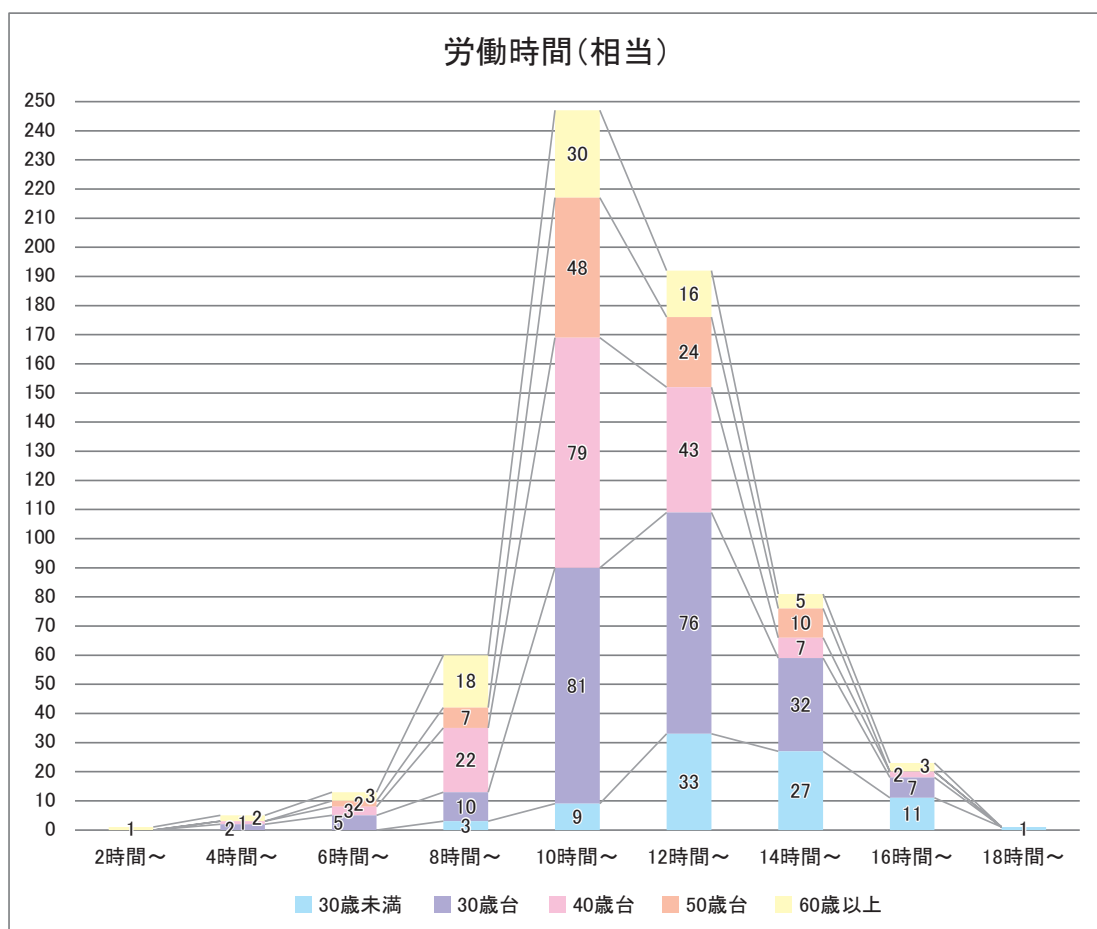
Ⅱ－８）労働時間（本人）

※平均的な帰宅時間から、同様の出勤時間を引いた数字を集計したものです。

出勤時間及び帰宅時間について回答のあった623人から労働時間を算出した。ここでの労働時間は、家を出てから帰宅するまでの時間である。

「10時間以上12時間未満」が最も多く247人（39.6%）、次いで「12時間以上14時間未満」が192人（30.8%）だった。「14時間以上」も合わせて105人（16.9%）いた。

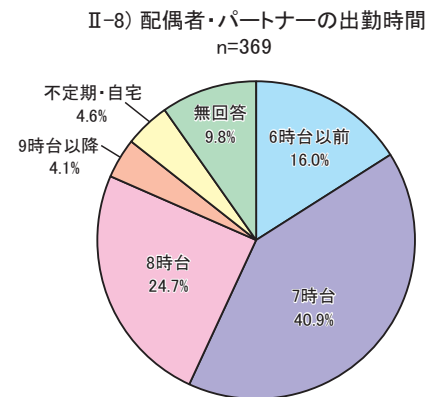
	30歳未満	30歳台	40歳台	50歳台	60歳以上	実数	比率
2時間以上 4時間未満	0	0	0	0	1	1	0.2
4時間以上 6時間未満	0	2	1	0	2	5	0.8
6時間以上 8時間未満	0	5	3	2	3	13	2
8時間以上10時間未満	3	10	22	7	18	60	9.6
10時間以上12時間未満	9	81	79	48	30	247	39.6
12時間以上14時間未満	33	76	43	24	16	192	30.8
14時間以上16時間未満	27	32	7	10	5	81	13
16時間以上18時間未満	11	7	2	0	3	23	3.7
18時間以上	1	0	0	0	0	1	0.2
合 計	84	213	157	91	78	623	100



Ⅱ－８）配偶者・パートナーの出勤時間

「既婚（配偶者と同居）」（355人）及び「未婚だがパートナーと同居」（14人）とお答えいただいた回答者369人のうち、「配偶者・パートナーの出勤時間」について回答があったのは333人で、「7時台」が最も多く151人（40.9%）、次に「8時台」91人（24.7%）と続き、「7時台」と「8時台」で65.6%を占めている。女性医師の出勤時間とほぼ同じ時間帯だった。

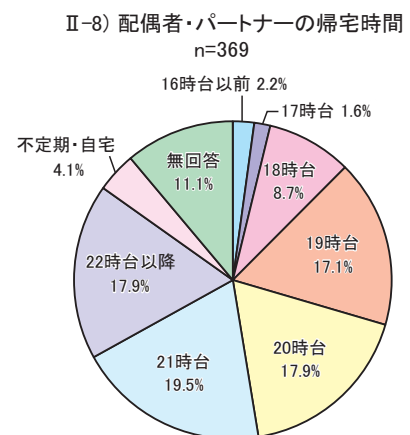
	実数	比率
1 6時台以前	59	16.0
2 7時台	151	40.9
3 8時台	91	24.7
4 9時台以降	15	4.1
5 不定期・自宅	17	4.6
無回答	36	9.8
総 数	369	100.0



Ⅱ－８）配偶者・パートナーの帰宅時間

「既婚（配偶者と同居）」（355人）及び「未婚だがパートナーと同居」（14人）とお答えいただいた回答者369人のうち、「配偶者・パートナーの帰宅時間」について回答があったのは328人で、「21時台」が最も多く72人（19.5%）、次いで「22時台以降」66人（17.9%）、「20時台」66人（17.9%）、「19時台」63人（17.1%）と僅差で並んでいる。女性医師の帰宅時間より遅い傾向にある。

	実数	比率
1 16時台以前	8	2.2
2 17時台	6	1.6
3 18時台	32	8.7
4 19時台	63	17.1
5 20時台	66	17.9
6 21時台	72	19.5
7 22時台以降	66	17.9
8 不定期・自宅	15	4.1
無回答	41	11.1
総 数	369	100.0



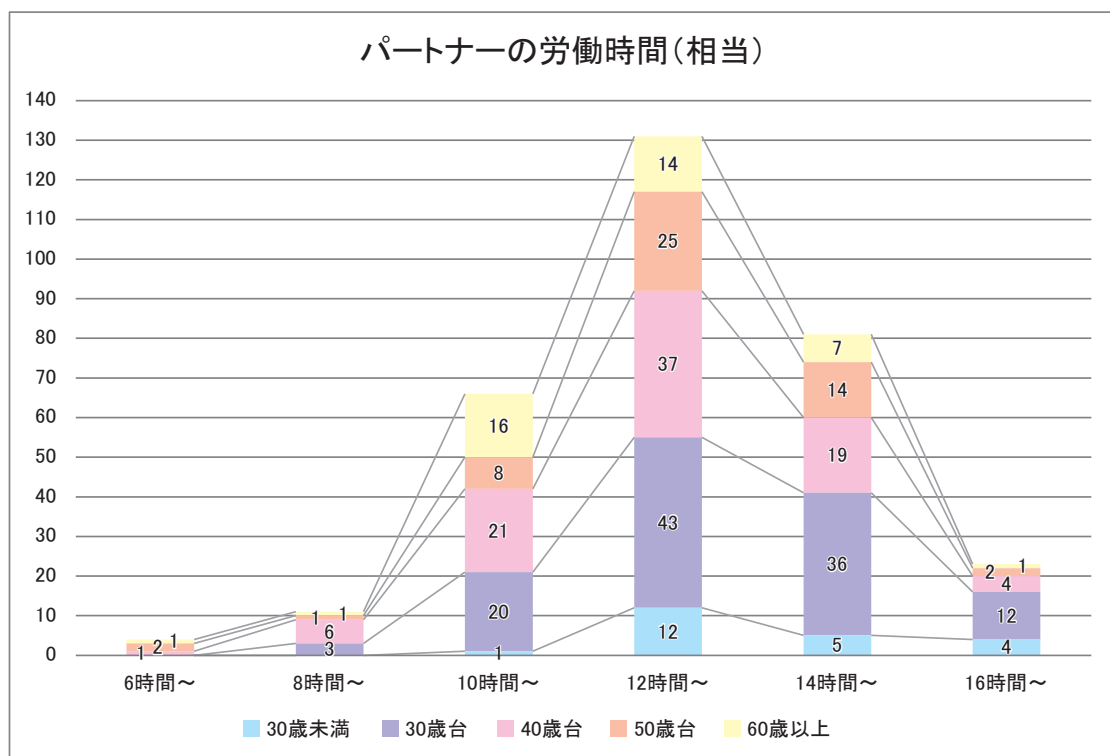
Ⅱ－８）配偶者・パートナーの労働時間

※これは配偶者・パートナー自身の年齢ではなく、例えば、ご本人（40歳台）のパートナーの労働時間（相当）ということです。

配偶者・パートナーの出勤時間及び帰宅時間について回答のあった316人から労働時間を算出した。ここでの労働時間は、配偶者・パートナーが家を出てから帰宅するまでの時間である。

「12時間以上14時間未満」が最も多く131人（41.6%）、次いで「14時間以上16時間未満」が81人（25.6%）、「10時間以上12時間未満」66人（20.9%）だった。「16時間以上」も合わせて23人（13.7%）いた。

	30歳未満	30歳台	40歳台	50歳台	60歳以上	実数	比率
6時間以上8時間未満	0	0	1	2	1	4	1.3
8時間以上10時間未満	0	3	6	1	1	11	3.5
10時間以上12時間未満	1	20	21	8	16	66	20.9
12時間以上14時間未満	12	43	37	25	14	131	41.6
14時間以上16時間未満	5	36	19	14	7	81	25.6
16時間以上	4	12	4	2	1	23	13.7
合 計	22	114	88	52	40	316	100



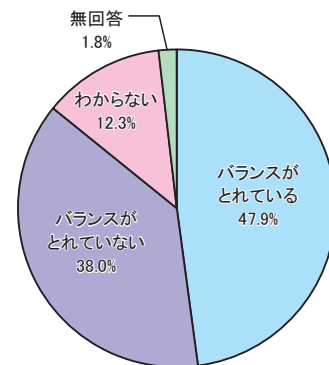
Ⅲ ワークライフバランスについて

Ⅲ－9) 現在のご自身のワークライフバランス

全回答者656人のうち、現在のご自身のワークライフバランスに対する質問に回答があったのは644人で、47.9%が「バランスがとれている」と回答しているが、「バランスがとれていない」「わからない」の回答も合わせて50.3%あり、回答が割れた。

	実数	比率
1 バランスがとれている	314	47.9
2 バランスがとれていない	249	38.0
3 わからない	81	12.3
無回答	12	1.8
総 数	656	100.0

Ⅲ-9) 現在のご自身のワークライフバランス
n=656

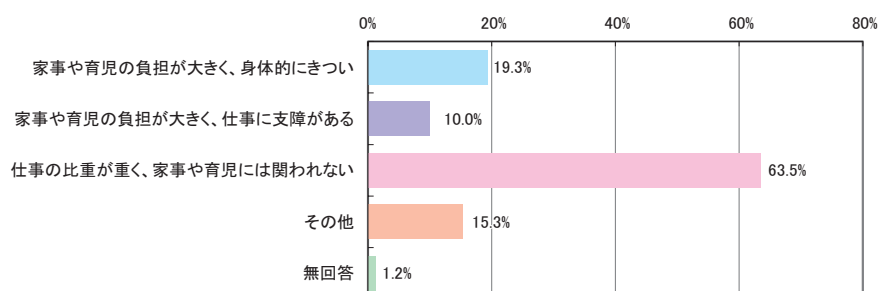


Ⅲ－10) (バランスがとれていない方)【複数回答あり】

「バランスがとれていない」と回答した249人のうち、理由の回答があったのは246人で、「仕事の比重が重く、家事や育児には関われない」と回答した人が最も多く158人（63.5%）だった。

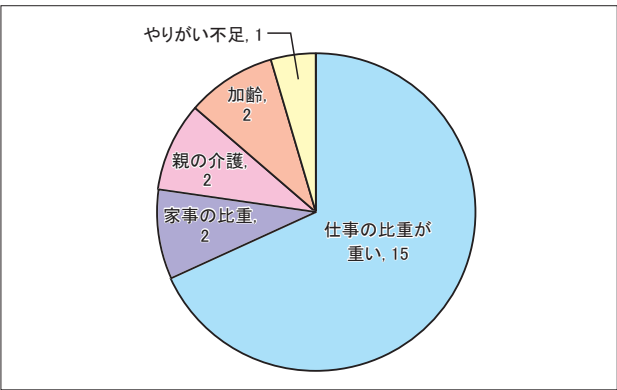
	実数	比率
1 家事や育児の負担が大きく、身体的にきつい	48	19.3
2 家事や育児の負担が大きく、仕事に支障がある	25	10.0
3 仕事の比重が重く、家事や育児には関われない	158	63.5
4 その他（※）	38	15.3
無回答	3	1.2
総 数	249	

Ⅲ-10) (バランスがとれていない方)【複数回答あり】
n=249



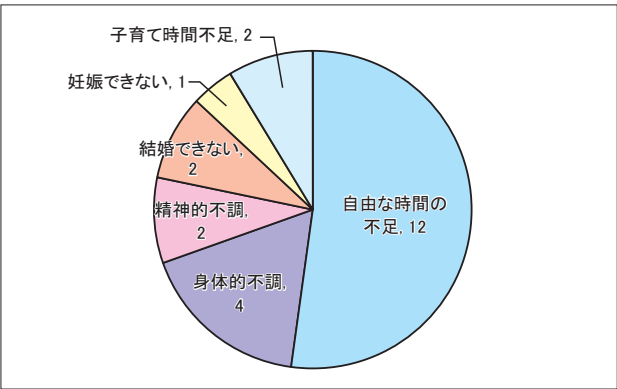
※「4 その他」に回答された31人の要素を抽出。

1) ワークライフバランスがとれない理由



仕事に時間をとられることを、いろいろな側面からあげる人が多かった。

2) ワークライフバランスがとれない結果、困ること



自由な時間の不足の小項目として、妊娠／結婚／子育てに費やす時間の不足も含まれると考えられる。

「4 その他」回答抜粋

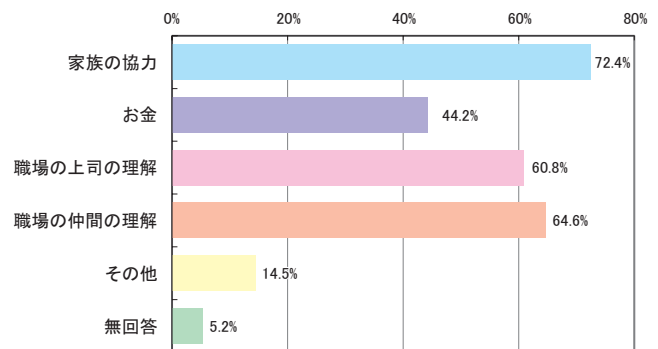
仕事の比重が大きく、十分な余暇を得られない。
婚活の時間が必要。
在宅介護をしているので余裕が無い。

Ⅲ-11) ワークライフバランスをとるために必要だと思うものは【複数回答】

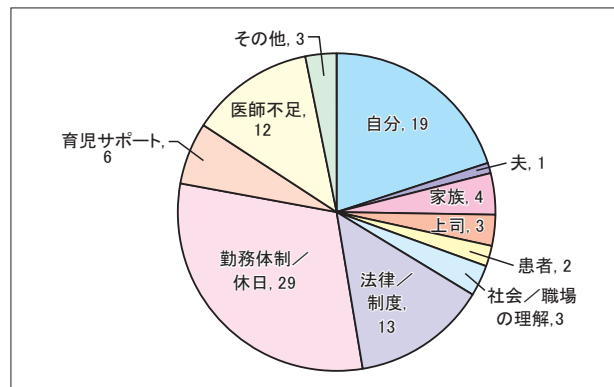
全回答者656人のうち、ワークライフバランスをとるために必要だと思うものに対する質問に回答があったのは622人で、「家族の協力」が最も多く475人（72.4%）、次いで「職場の仲間の理解」424人（64.6%）、「職場の上司の理解」399人（60.8%）と「職場」関係が続いた。

	実数	比率
1 家族の協力	475	72.4
2 お金	290	44.2
3 職場の上司の理解	399	60.8
4 職場の仲間の理解	424	64.6
5 その他（※）	95	14.5
無回答	34	5.2
総 数	656	

Ⅲ-11) ワークライフバランスをとるために必要だと思うものは
【複数回答】 n=656



※「5 その他」に91人から回答をいただき、95件の意見を抽出した。



1) 自分

自分の意志に起因するもの（仕事と家事の割り切りなど）が13例、仕事量が4例、自己管理1例

2、3) 夫／家族

夫の家事能力が1例

近隣に親戚／祖父母がいること

4) 上司

本人の上司も去ることながら、パートナーの上司の理解と答えた人が2件

5、6) 患者 社会の理解

医師は24時間働くのが当たり前と思っている一般の方がいることが負担 1例

7) 法律 制度

医療制度が10例 社会資源の活用 3 例（家事代行 2 例）

8) 勤務体制 休日

仕事量が多いが 4 件、仕事に拘束される時間の長さが 5 件、職場風土／環境が 2 件、
休日がしっかりとれるが 6 件、勤務体制に10件の意見をいただいた
勤務体制への提案として、

- フレックスタイム制
- 急な休みのサポート
- 休暇設定（県の休暇制度で、義務教育期間中の学校行事で取得できる休暇）
- 仕事の穴をカバーできるような人員配置
- 医師の働き方の見直し
 - ・当直制度の廃止→夜勤形態とする
 - ・主治医制→グループ診療とする

9) 育児サポート

保育園、託児サービス 6 件

10) 医師不足

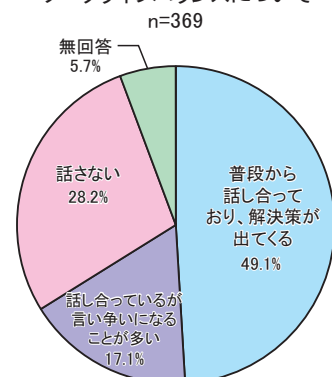
日本全体の医師数の増加の視点もあり、不足した際に臨時で補う制度や、医局制度／派遣の
話題など、12件

Ⅲ-12)（配偶者・パートナーと同居している方）ワークライフバランスについて

「既婚（配偶者と同居）」（355人）及び「未婚だがパートナーと同居」（14人）とお答えいただいた回答者369人のうち、（配偶者・パートナーと同居している方）のワークバランスに対する質問に回答があったのは348人で、49.1%が「普段から話し合っており、解決策が出てくる」と回答しているが、「話し合っているが、言い争いになることが多い」「話さない」も合わせて45.3%あり、回答が割れた。

	実数	比率
1 普段から話し合っており、解決策が出てくる	181	49.1
2 話し合っているが、言い争いになることが多い	63	17.1
3 話さない	104	28.2
無回答	21	5.7
総 数	369	100.0

Ⅲ-12)（配偶者・パートナーと同居している方）
ワークライフバランスについて



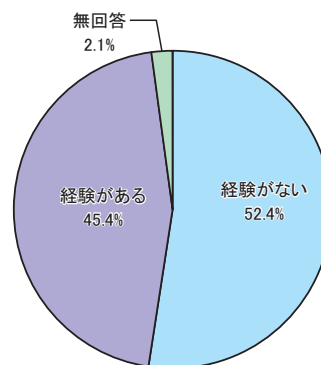
Ⅳ ハラスメントについて

Ⅳ－13) ハラスメントを受けて嫌な思いをしたこと

全回答者656人のうち、ハラスメントを受けて嫌な思いをしたことに対する質問に回答があったのは642人であり、「経験がある」と回答した人が298人（45.4%）いた。

	実数	比率
1 経験がない	344	52.4
2 経験がある	298	45.4
無回答	14	2.1
総 数	656	100.0

Ⅳ-13) ハラスメントを受けて嫌な思いをしたこと
n=656

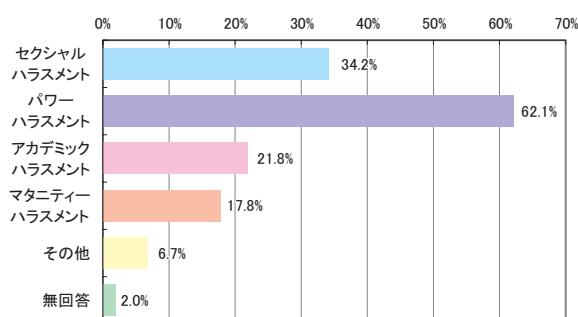


Ⅳ－14) ハラスメントの内容【複数回答】

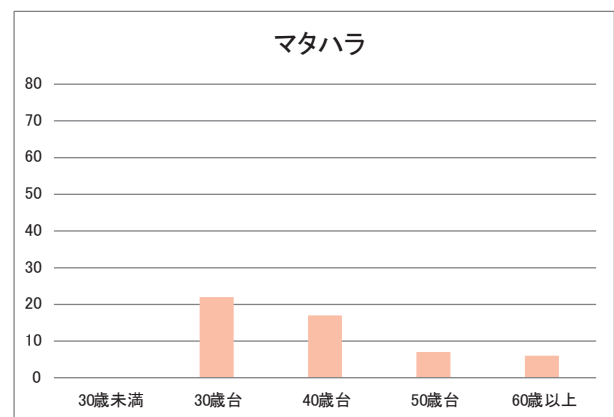
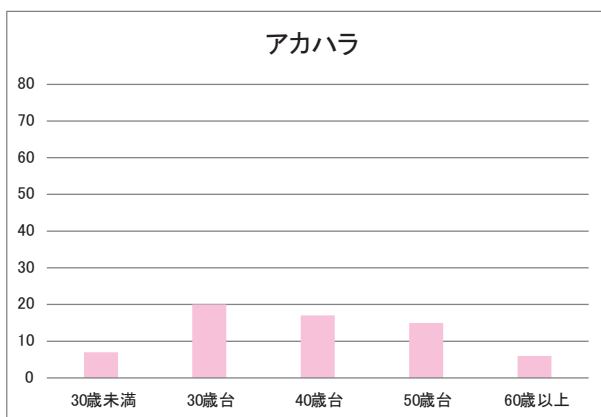
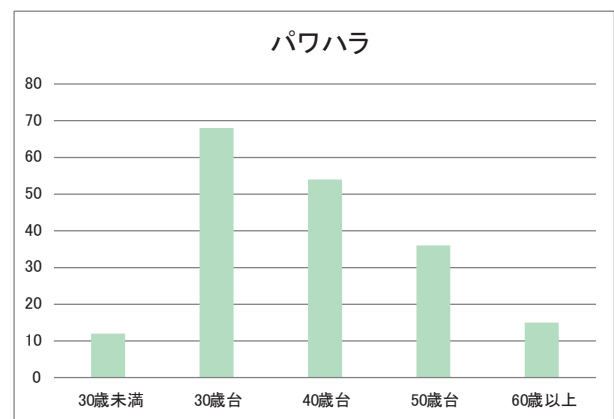
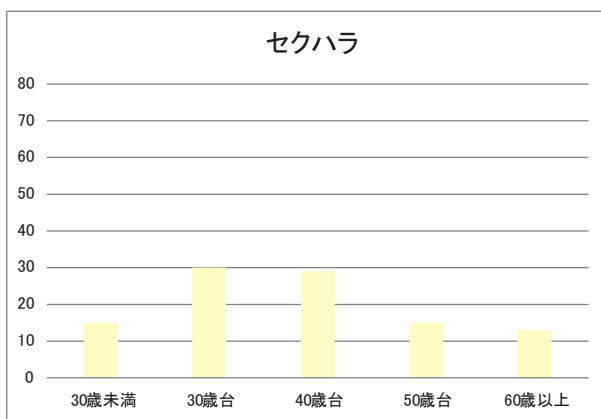
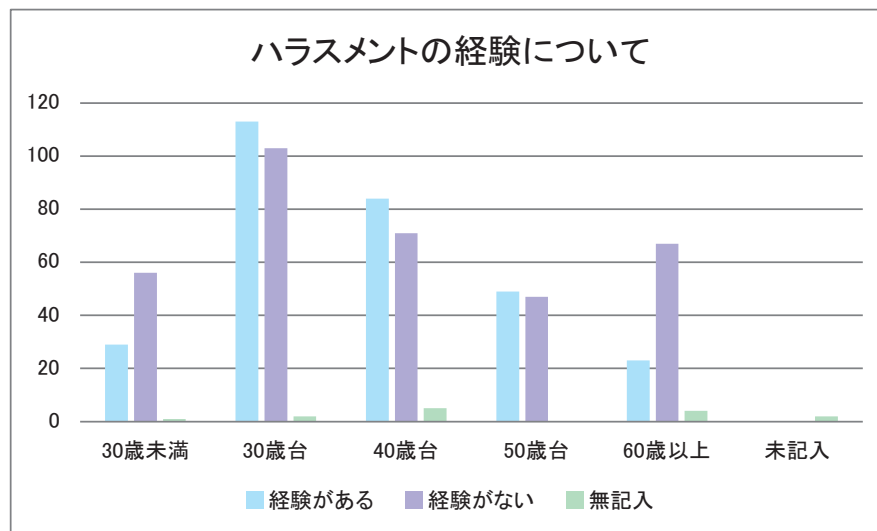
「経験がある」と回答した298人のうち、ハラスメントの内容について回答があったのは292人（複数回答あり）で、「パワーハラスメント」が185人（62.1%）と最も多かった。次いで、「セクシャルハラスメント」102人（34.2%）、「アカデミックハラスメント」65人（21.8%）と続いている。

	実数	比率
1 セクシャルハラスメント	102	34.2
2 パワーハラスメント	185	62.1
3 アカデミックハラスメント	65	21.8
4 マタニティーハラスメント	53	17.8
5 その他（※）	20	6.7
無回答	6	2.0
総 数	298	

Ⅳ-14) ハラスメントの内容【複数回答】 n=298



参考)



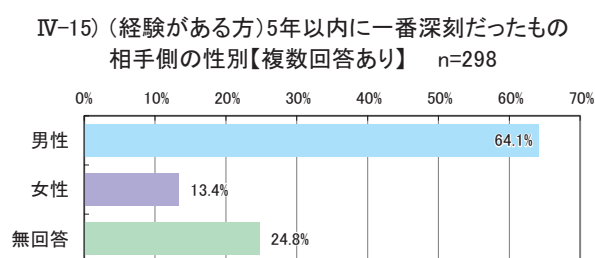
IV-14) ※「5 その他」具体的に受けた行為

モラハラ（5）		5
出産・育児についての嫌がらせ（5）	育児による時短勤務への嫌味	3
	子どもを産めという発言	1
	子どもが病気で休んだ時に嫌がらせを受けた	1
嫌がらせ（その他）（3）	コメディカルからの嫌がらせ	1
	パラメディカルによるハラスメント	1
	同僚の嫌がらせ	1
その他（3）	ありとあらゆる場面で、小さい出来事がたくさん	1
	ネグレクト	1
	男性医師の下ネタ、女性に対しての品評会	1

IV-15)（経験がある方）5年以内に一番深刻だったもの：相手側の性別【複数回答あり】

「経験がある」と回答した298人のうち、5年以内に一番深刻だったものの相手側の性別について回答があったのは224人（複数回答あり）で、「男性」が191人（64.1%）と半数を超えた。

	実数	比率
1 男性	191	64.1
2 女性	40	13.4
無回答	74	24.8
総 数	298	

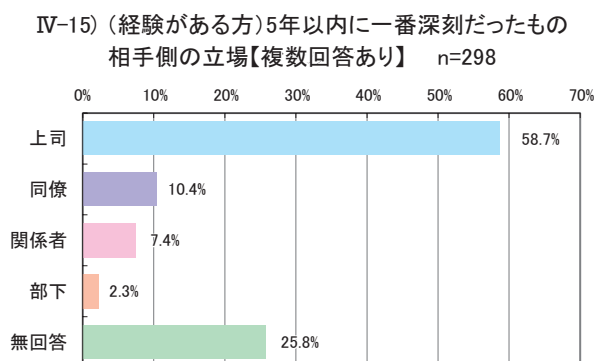


複数回答者がいるので複数選択可として集計しています。

IV-15)（経験がある方）5年以内に一番深刻だったもの：相手側の立場【複数回答あり】

「経験がある」と回答した298人のうち、5年以内に一番深刻だったものの相手側の立場について回答があったのは221人（複数回答あり）で、「上司」が175人（58.7%）と最も多かった。

	実数	比率
1 上司	175	58.7
2 同僚	31	10.4
3 関係者	22	7.4
4 部下	7	2.3
無回答	77	25.8
総 数	298	



Ⅳ－16) ハラスメントにより行った対応・受けた影響

行った対応 (88)	我慢 (25)	我慢する・耐える	15
		黙ってやり過ごす	3
		従うしかない	3
		時が解決するのを待つ	2
		諦める	1
		何とも思わない風を装う	1
	相談 (26)	他の上司に相談	10
		他の上司に相談したが解決されず	5
		ハラスメント相談所（勤務先）に相談	5
		さらに上の上司に相談	3
		女性上司に相談	1
		他の上司に相談して解決	1
		状況改善を依頼	1
	受け流す (13)	聞き流す・受け流す	12
		笑ってごまかす	1
	無視 (14)	何もしない	6
		無視（心の中で無視を含む）	5
		関わりを持たない	2
		静観	1
	不快感を表す (5)	不快感を表す	1
		怒りを表す	1
		反対に攻撃	1
		危機を予測し防御	1
		ハラスメントだとはっきりと伝える	1
	その他 (5)	愚痴をこぼす	4
		相手の人を可哀想だと思う	1

受けた影響・内容 (142)	無視される (5)	業務からの締め出し	2
		情報を伝達してくれない	3
	責められる (4) (怒鳴られる)	言いがかりをつけられる	1
		人前で怒鳴られる	3
	嫌がらせを受ける (12)	悪い噂を流される	2
		恐喝	1
		男性医師との対応の差 （「女性だから」という理由で差をつけられる	7
		抗議のたびに嫌がらせがエスカレート	2
	精神的ダメージ (21)	うつ病	6
		精神的ダメージ	4
		精神科通院	3
		夜寝られない	2

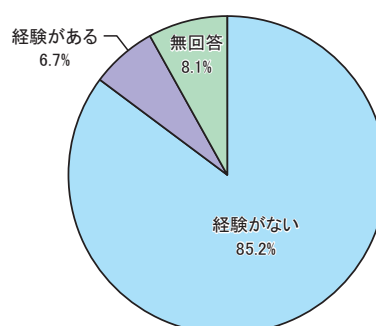
受けた影響・内容 (142)	精神的ダメージ (21)	適応障害	1
		カウンセリングを受ける	1
		うまく話が出来ない	1
		仕事場に行けなくなった	1
		気分が不快	1
		思い出すのも苦痛	1
	体調を崩す (6)	ストレス性胃炎	1
		耳鳴り	1
		体重激減	1
		自律神経失調症	1
		過労	1
		低血圧発作 (妊娠時)	1
	異動 (4)	相談の結果、異動	4
	転職 (9)	不眠になり転職・開業した (3)	9
	休職 (9)	パワハラ・うつ・賃金未払い(残業代)・自分を責めた	9
	退職 (13)	1年我慢した後に、うつ病のため、医局をやめさせられた	13
	その他 (2)	ポストがなくなり復職困難	1
		常勤から非常勤になった	1
	セクハラ (2)	上司よりプライベートなお誘い	2
	パワハラ (11)	休日出勤・当直の強要	4
		緊急時以外に休日・夜間に電話	1
		ポスト就任時の嫌がらせ	1
		上司からの実験の妨害	1
		指導医からの脅し (雑用の強要など)	1
		立場を利用した脅し	1
		机を取り上げられる	1
		個人的な好みによるひいき	1
	マタハラ (36)	妊娠の際に文句を言われる	8
		妊娠の際の嫌がらせ	7
		育児中の時間制約に対して理解してもらえない	5
		産後復帰に配慮のない労働条件をつけられる	5
		育休への文句	3
		出産後の退職を勧められる (退職した)	3
		産休への文句	2
		残業・当直が出来ないことへの文句・嫌がらせ	2
		産後、常勤から非常勤に	1
	その他 (8)	未婚であることをバカにされる	2
		子どもが出来ないことへの配慮の欠けた発言	2
		昼食をなくされた	1
		仕事がスムーズに進まない	1
		妊娠した、出産した女性のサボタージュ	1
		女性用の更衣室がない	1

IV-17) DV（家庭内暴力・デートDV含）について

全回答者656人のうち、DVを受けたことに対する質問に回答があったのは603人で、経験がある人が44人（6.7%）いた。

	実数	比率
1 経験がない	559	85.2
2 経験がある	44	6.7
無回答	53	8.1
総 数	656	100.0

IV-17) DV(家庭内暴力・デートDV含)を受けたこと
n=656



IV-18) DVにより行った対応・受けた影響

行なった対応（13）	相談（4）	市役所	1
		DV友の会	1
		上司	1
		警察・弁護士	1
	別居（2）	モラハラ	1
		言葉の暴力	1
	離婚（4）	性的暴力	1
		精神的暴力	2
		肉体的暴力	1
	相手と距離を置く（2）		2
	逃げる（1）		1

受けた影響（6）	うつ病	2
	PTSD	4

その他（4）	DVで返す	1
	女性としての無力感・恐怖感が消えない	1
	尊敬する気持ちがなくなる	1
	従うだけの人間になってしまう	1

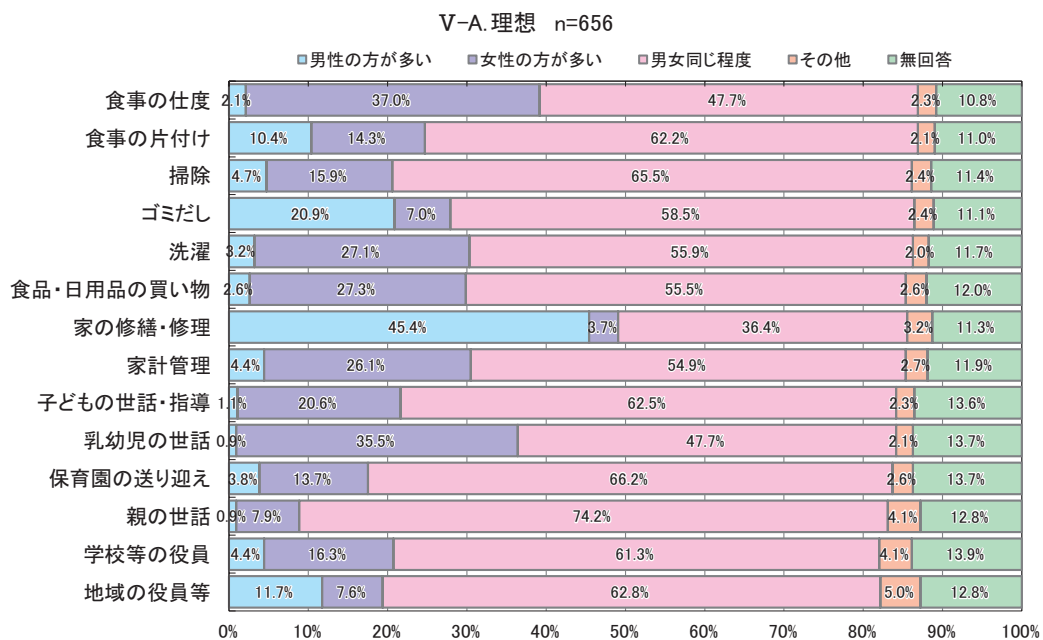
V 家庭での家事分担について

該当するものを1つ選び回答（単身者は「A. 理想」のみ回答）

「理想」では「男女同程度」の希望が多いが、「現実」は「家の修繕・修理」以外は、圧倒的に女性の負担が多くなっている。

V-A. 理想

	男性の方が 多い	女性の方が 多い	男女 同じ 程度	そ の 他	無 回 答	男性の方が 多い	女性の方が 多い	男女 同じ 程度	そ の 他	無 回 答	
食事の仕度	2.1%	37.0%	47.7%	2.3%	10.8%	14	243	313	15	71	656
食事の片付け	10.4%	14.3%	62.2%	2.1%	11.0%	68	94	408	14	72	656
掃除	4.7%	15.9%	65.5%	2.4%	11.4%	31	104	430	16	75	656
ゴミだし	20.9%	7.0%	58.5%	2.4%	11.1%	137	46	384	16	73	656
洗濯	3.2%	27.1%	55.9%	2.0%	11.7%	21	178	367	13	77	656
食品・日用品の買い物	2.6%	27.3%	55.5%	2.6%	12.0%	17	179	364	17	79	656
家の修繕・修理	45.4%	3.7%	36.4%	3.2%	11.3%	298	24	239	21	74	656
家計管理	4.4%	26.1%	54.9%	2.7%	11.9%	29	171	360	18	78	656
子どもの世話・指導	1.1%	20.6%	62.5%	2.3%	13.6%	7	135	410	15	89	656
乳幼児の世話	0.9%	35.5%	47.7%	2.1%	13.7%	6	233	313	14	90	656
保育園の送り迎え	3.8%	13.7%	66.2%	2.6%	13.7%	25	90	434	17	90	656
親の世話	0.9%	7.9%	74.2%	4.1%	12.8%	6	52	487	27	84	656
学校等の役員	4.4%	16.3%	61.3%	4.1%	13.9%	29	107	402	27	91	656
地域の役員等	11.7%	7.6%	62.8%	5.0%	12.8%	77	50	412	33	84	656



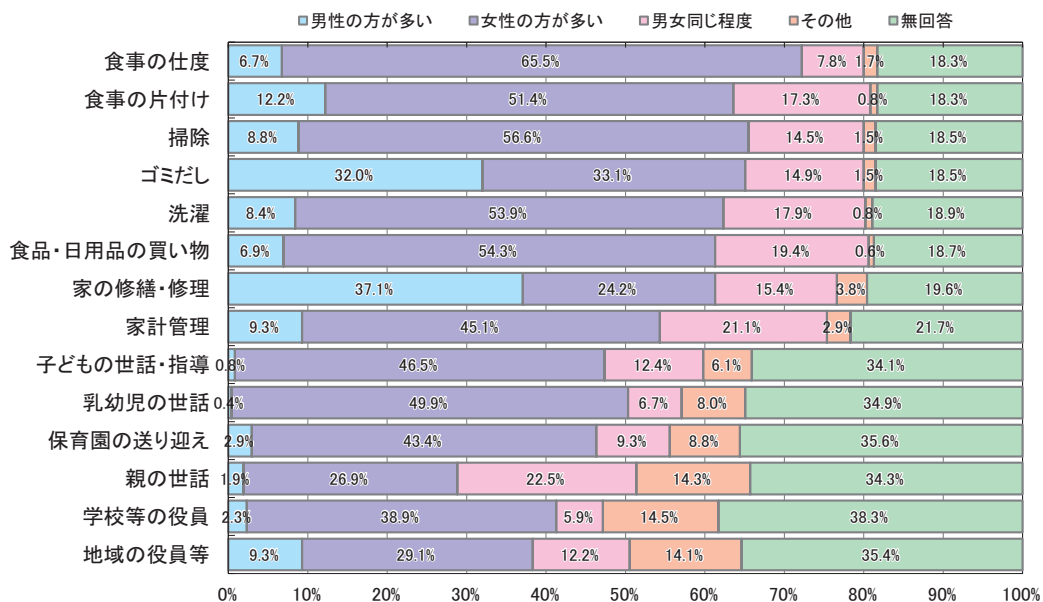
V-B. 現実については、未婚で一人暮らしを除く475人を母数としています。

その他は「子供なし」等、該当しないため「その他」を選択しているケースが多く見られます。

V-B. 現実

	男性の方が 多い	女性の方が 多い	男女同じ 程度	そ の 他	無 回 答	
食事の仕度	6.7%	65.5%	7.8%	1.7%	18.3%	32 311 37 8 87 475
食事の片付け	12.2%	51.4%	17.3%	0.8%	18.3%	58 244 82 4 87 475
掃除	8.8%	56.6%	14.5%	1.5%	18.5%	42 269 69 7 88 475
ゴミだし	32.0%	33.1%	14.9%	1.5%	18.5%	152 157 71 7 88 475
洗濯	8.4%	53.9%	17.9%	0.8%	18.9%	40 256 85 4 90 475
食品・日用品の買い物	6.9%	54.3%	19.4%	0.6%	18.7%	33 258 92 3 89 475
家の修繕・修理	37.1%	24.2%	15.4%	3.8%	19.6%	176 115 73 18 93 475
家計管理	9.3%	45.1%	21.1%	2.9%	21.7%	44 214 100 14 103 475
子どもの世話・指導	0.8%	46.5%	12.4%	6.1%	34.1%	4 221 59 29 162 475
乳幼児の世話	0.4%	49.9%	6.7%	8.0%	34.9%	2 237 32 38 166 475
保育園の送り迎え	2.9%	43.4%	9.3%	8.8%	35.6%	14 206 44 42 169 475
親の世話	1.9%	26.9%	22.5%	14.3%	34.3%	9 128 107 68 163 475
学校等の役員	2.3%	38.9%	5.9%	14.5%	38.3%	11 185 28 69 182 475
地域の役員等	9.3%	29.1%	12.2%	14.1%	35.4%	44 138 58 67 168 475

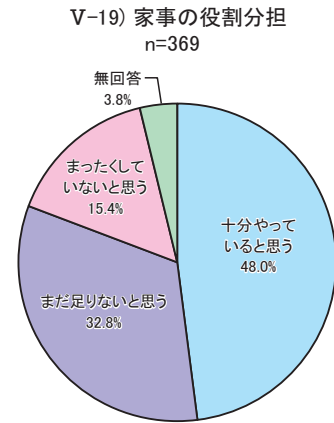
V-B.現実 n=475



V-19) (配偶者、パートナーと同居の方) 家事の役割分担

「既婚（配偶者と同居）」（355人）及び「未婚だがパートナーと同居」（14人）とお答えいただいた回答者369人のうち、「配偶者・パートナー」の家事の役割分担について回答があったのは355人で、「十分やっていると思う」が117人（48.0%）で約半数だったが、「まだ足りないと思う」、「まったくしていないと思う」の回答も合わせて48.0%あり、回答が割れた。

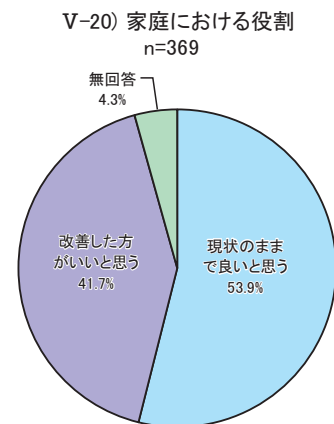
	実数	比率
1 十分やっていると思う	117	48.0
2 まだ足りないと思う	121	32.8
3 まったくしていないと思う	57	15.4
無回答	14	3.8
総 数	369	100.0



V-20) (配偶者、パートナーと同居の方) 家庭における役割

「既婚（配偶者と同居）」（355人）及び「未婚だがパートナーと同居」（14人）とお答えいただいた回答者369人のうち、「配偶者・パートナー」の「家庭における役割」について回答があったのは353人で、「現状のままで良いと思う」が199人（53.9%）で半数だったが、「改善した方がいいと思う」の回答も41.7%あり、回答が割れた。

	実数	比率
1 現状のままで良いと思う	199	53.9
2 改善した方がいいと思う	154	41.7
無回答	16	4.3
総 数	369	100.0

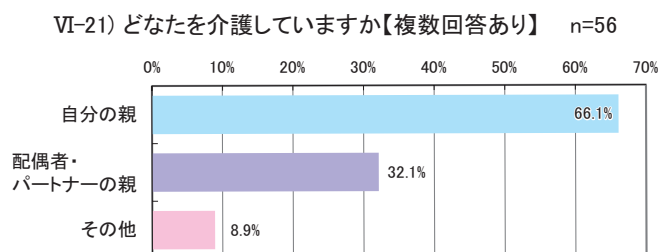


VI 介護について

VI-21) どなたを介護していますか【複数回答あり】

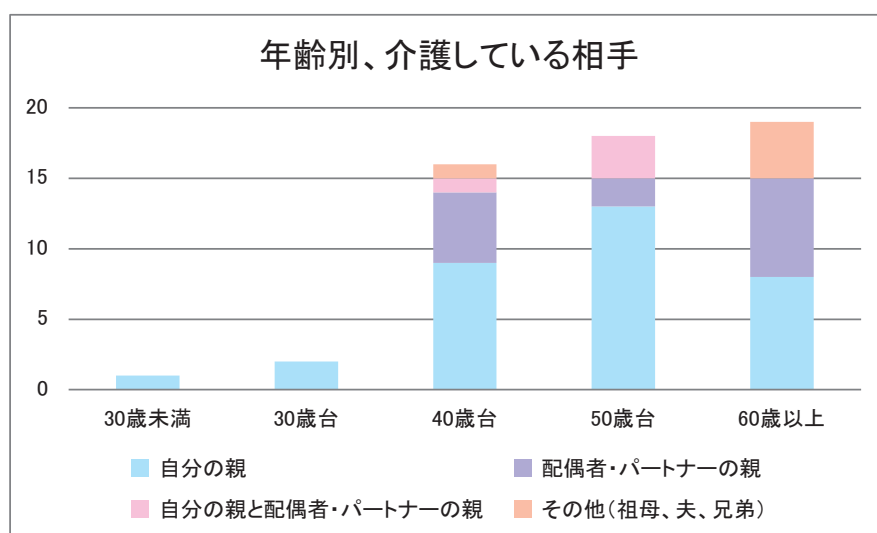
全回答者656人のうち、介護をしていると回答があったのは56人（全回答者の8.5%）（複数回答あり）で、介護の対象は「自分の親」が37人（66.1%）と最も多かった。

	実数	比率
1 自分の親	37	66.1
2 配偶者・パートナーの親	18	32.1
3 その他	5	8.9
総 数	56	



複数回答者がいるので複数選択可として集計しています。

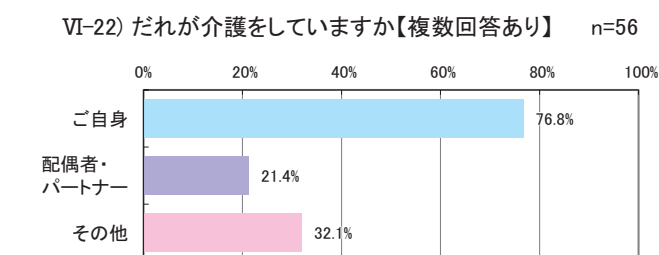
参考)



VI-22) だれが介護をしていますか【複数回答あり】

全回答者656人のうち、介護をしている人は56人（全回答者の8.5%）（複数回答あり）で、介護をしている人は「ご自身」が43人（76.8%）と最も多かった。

	実数	比率
1 ご自身	43	76.8
2 配偶者・パートナー	12	21.4
3 その他	18	32.1
総 数	56	



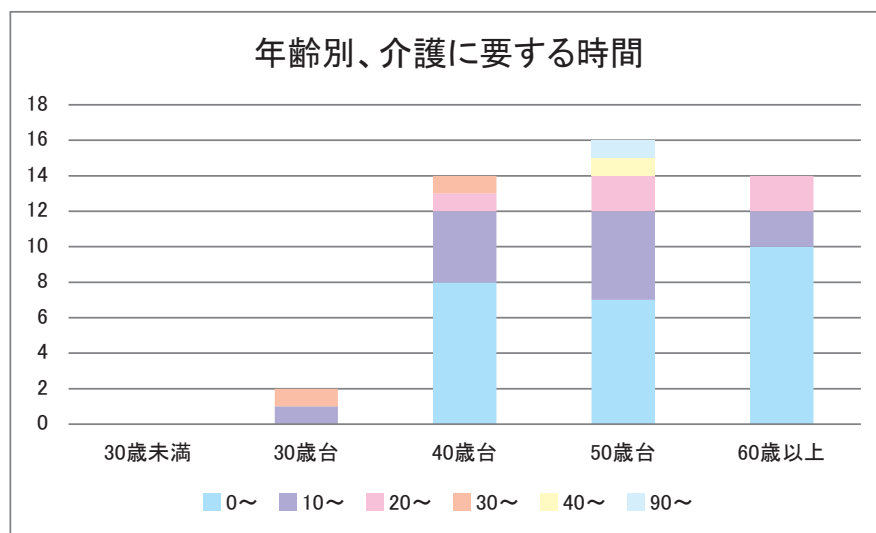
複数回答者がいるので複数選択可として集計しています。

VI-23) 1週間で介護に要する時間

介護をしているとお答えいただいた56人のうち、介護に要する時間について回答があったのは46名、そのうち「10時間以内」が25人（44.6%）と約半数、続いて「20時間以内」が12人（21.4%）と続いた。

	実数	比率
1 10時間以内	25	44.6
2 20時間以内	12	21.4
3 30時間以内	5	8.9
4 40時間以内	2	3.6
5 90時間以内	2	3.6
6 90時間以上	1	1.8
無回答	10	17.8
総 数	56	100.0

参考)



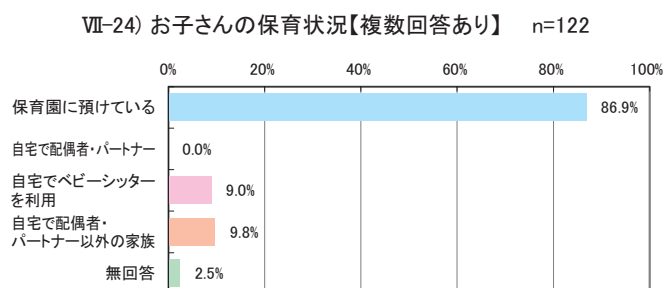
VII 育児について

VIIについてはI－3)で未就学児がいると回答した122人を集計対象としています。
ただし、未就学児はいないが、過去の実験から回答された方が見られました。

VII-24) お子さんの保育状況【複数回答あり】

I－3) 同居している家族(子ども)の有無で未就学児がいるとお答えいただいた122名(複数回答あり)のうち、お子さんの保育状況について回答があったのは119人で、「保育園に預けている」が106人(86.9%)と最も多かった。

	実数	比率
1 保育園に預けている	106	86.9
2 自宅で配偶者・パートナー	0	0.0
3 自宅でベビーシッターを利用	11	9.0
4 自宅で配偶者・パートナー以外の家族	12	9.8
無回答	3	2.5
総 数	122	

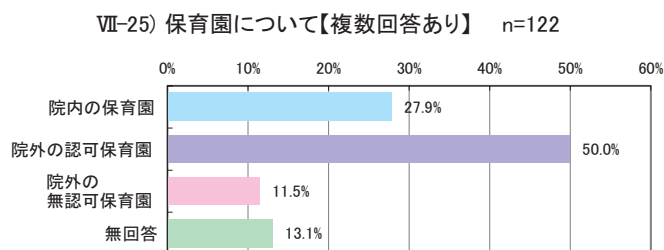


複数回答者がいるので複数選択可として集計しています。
また、「幼稚園」は「保育園」とみなして集計しています。

VII-25) (保育園に預けている方) 保育園について【複数回答あり】

「保育園に預けている」とお答えいただいた106名のうち、保育園の種類について回答があったのは106人(複数回答あり)で、「院外の認可保育園」が61人(50.0%)とちょうど半数で、次いで「院内の保育園」が34人(27.9%)だった。

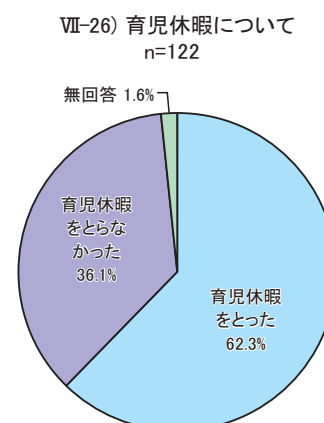
	実数	比率
1 院内の保育園	34	27.9
2 院外の認可保育園	61	50.0
3 院外の無認可保育園	14	11.5
無回答	16	13.1
総 数	122	



VII-26) 育児休暇について

未就学児がいるとお答えいただいた122名のうち、育児休暇について回答があったのは120人で、「育児休暇をとった」が76人（62.3%）と半数を超えたが、「育児休暇をとらなかった」という回答者も44人（36.1%）いた。

	実数	比率
1 育児休暇をとった（※）	76	62.3
2 育児休暇をとらなかった	44	36.1
無回答	2	1.6
総 数	122	100.0



第一子は取得し、第二子は未取得の場合、「とった」で集計しています。

※ 育児休暇をとった期間【複数回答あり】

最も多い回答が、「90日（3カ月）以内」17人（27.0%）で、次いで「180日（6カ月）以内」14人（22.2%）だった。「90日（3カ月）以内」～「180日（6カ月）以内」の合計で74.6%を占めた。

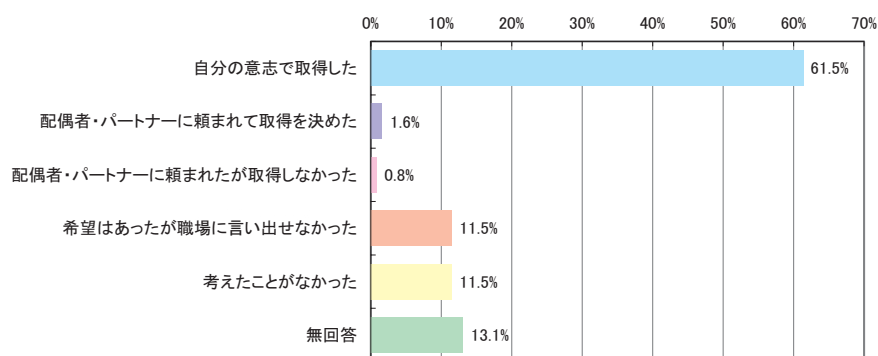
※複数記載されている場合は多い方を集計	実数	比率
1 90日（3カ月）以内	17	27.0
2 120日（4カ月）以内	8	12.7
3 150日（5カ月）以内	8	12.7
4 180日（6カ月）以内	14	22.2
5 210日～270日（7～9カ月）以内	7	11.1
6 365日（1年）	7	11.1
7 366日以上（最大480日）	2	0.3
総 数	63	

VII-27) 育児休暇の取得について

未就学児がいるとお答えいただいた122名のうち、育児休暇の取得について回答があったのは106人で、「自分の意思で取得した」が75人（61.5%）と半数を超えたが、「希望はあったが職場に言い出せなかった」という回答者も14人（11.5%）いた。

	実数	比率
1 自分の意思で取得した	75	61.5
2 配偶者・パートナーに頼まれて取得を決めた	2	1.6
3 配偶者・パートナーに頼まれたが取得しなかった	1	0.8
4 希望はあったが職場に言い出せなかった	14	11.5
5 考えたことがなかった	14	11.5
無回答	16	13.1
総 数	122	100.0

VII-27) 育児休暇の取得について n=122

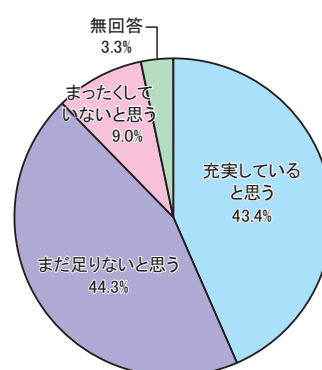


VII-28) 育児の分担について

未就学児がいるとお答えいただいた122名のうち、育児の分担について回答があったのは118人で、「まだ足りないと思う」54人（44.3%）と「充実していると思う」53人（43.4%）がほぼ同数だった。

	実数	比率
1 充実していると思う	53	43.4
2 まだ足りないと思う	54	44.3
3 まったくしていないと思う	11	9.0
無回答	4	3.3
総 数	122	100.0

VII-28) 育児の分担について n=122

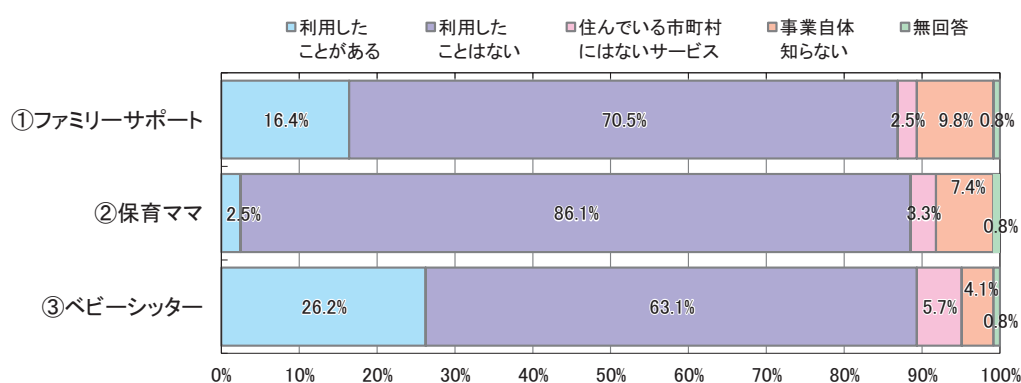


Ⅶ-29) 育児に関する行政サービスについて

未就学児がいるとお答えいただいた122名のうち、育児に関する行政サービスについて回答があったのは121人で、「ファミリーサポート」「保育ママ」「ベビーシッター」のいずれも「利用したことがある」より「利用したことはない」の回答が大きく上回った。

	利用したことがある	利用したことはない	住んでいる市町村にはないサービス	事業自体知らない	無回答	
①ファミリーサポート	20	86	3	12	1	122
②保育ママ	3	105	4	9	1	122
③ベビーシッター	32	77	7	5	1	122

Ⅶ-29) 保育サービスの利用 n=122



Ⅶ-29) 行政サービス（困ったこと、要望、希望など）

自由意見に書いていただいた内容をまとめると下記の通りとなった。

a) 時間的に利用しづらい (20)	ファミリーサポート	7
	全て	5
	病児保育	4
	保育ママ	2
	保育園	1
	学童保育	1
b) 利用に不安 (9)	ファミリーサポートの人柄（資格がない・意識が低い）	4
	密室になってしまう	3
	保育内容が不明確	2
c) サービス整備・拡充 (14)	病児保育	6
	施設の数が少ない	3
	夜間保育	2
	人材育成	1
	児童館	1
	学童保育	1
d) 金額が高い (7)	ベビーシッター	6
	公立保育園の年収スライド	1

自由意見回答抜粋

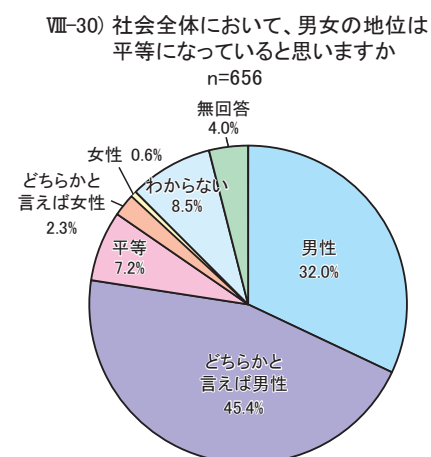
ファミリーサポートは支援者が少なく使いづらい。予約が直前にできないためエンゼルヘルパーは使えたが、ファミリーサポートはほとんど使わなかった。
病児保育の体制がないと常勤で働き続けることは(祖父母の協力がないと)困難。
どんな方が見てくれるのか分かりにくく、行政サービスにはやや抵抗がある。
住んでいる市町村がなく、行政/民間に強く要望している。しかし今のところ実現されていない。
都内を中心に病児を見てくれるシッター派遣を行っているグループがあります。小児科医も登録されていて、当日の急な要請でも派遣してくれます。行政や地元の医師会などで、こういったサービスを提供してもらえると助かります。
今後出産希望だが、自営クリニックの副院長のためほぼ仕事を休めないで、女性医師等短期で働いてくれる医師など紹介して欲しい。

VIII 男女共同参画社会に関する意識について

VIII-30) 社会全体において、男女の地位は平等になっていると思いますか

全回答者656人のうち、男女の地位が平等になっているかどうかの質問に回答があったのは630人で、最も多いのは「どちらかと言えば男性」の298人（45.4%）だった。次の「男性」の210人（32.0%）を合わせると「男性」の回答が77.4%（508人）を占めた。

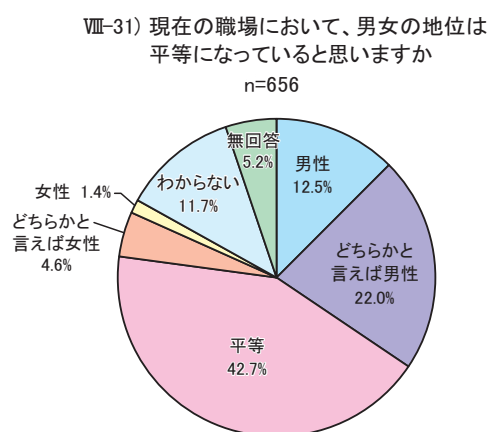
	実数	比率
1 男性	210	32.0
2 どちらかと言えば男性	298	45.4
3 平等	47	7.2
4 どちらかと言えば女性	15	2.3
5 女性	4	0.6
6 わからない	56	8.5
無回答	26	4.0
総 数	656	100.0



VIII-31) 現在の職場において、男女の地位は平等になっていると思いますか

全回答者656人のうち、現在の職場で男女の地位が平等になっているかどうかの質問に回答があったのは622人で、最も多いのは「平等」で280人（42.7%）、次いで、「どちらかと言えば男性」が144人（22.0%）だった。

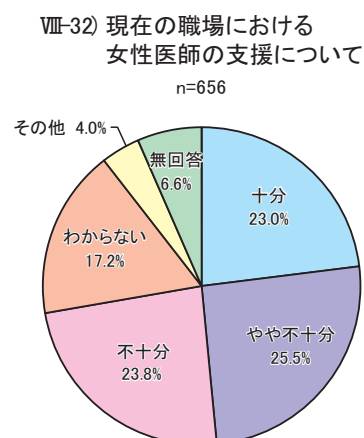
	実数	比率
1 男性	82	12.5
2 どちらかと言えば男性	144	22.0
3 平等	280	42.7
4 どちらかと言えば女性	30	4.6
5 女性	9	1.4
6 わからない	77	11.7
無回答	34	5.2
総 数	656	100.0



VIII-32) 現在の職場における女性医師の支援について

全回答者656人のうち、現在の職場における女性医師の支援についての質問に回答があったのは613人で、「やや不十分」167人（25.5%）、「不十分」156人（23.8%）、「十分」151人（23.0%）の回答がほぼ同数で並んだ。

	実数	比率
1 十分	151	23.0
2 やや不十分	167	25.5
3 不十分	156	23.8
4 わからない	113	17.2
5 その他（※）	26	4.0
無回答	43	6.6
総 数	656	100.0



「わからない」「その他」を選択して注書きで「全員女性」「女性のみ」と書かれているケースでも、選択された数字どおり集計しています。

※「5 その他」意見

支援がない・できない (15)	開業医で1人なので支援なし	13
	女性だけの職場なので支援なし	1
	人がいないので支援体制が組めない	1
育児（6）	当直を軽減されているが、重要な仕事は任せられず出世もしない	1
	非常勤では施設内保育で預かってもらえない	1
	職場は協力的だが、子供の病気の時など困ることが多い	1
	院内保育所がない	1
	院内学童保育がない	1
	院内病児保育が9時～17時（1人/日）と短い時間で制限がある	1
その他（5）	女性医師を支援するより、日常生活で何もしない男性医師を家庭で働かせるべき	1
	女性医師の意識改革が必要（甘えすぎ・子供を武器にズルし過ぎる）	1
	育児に対する勤務時間配慮はあるが、介護に関してはコンセンサスが作られていない	1
	女性用の当直室がない	1
	特にないが困ってない	1

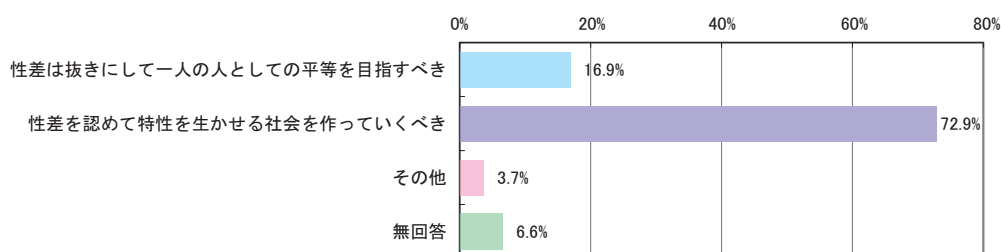
Ⅷ－33) 男女共同参画とはどちらの社会を目指していると思いますか【複数回答あり】

全回答者656人のうち、男女共同参画を目指す社会への質問に回答があったのは613人で、「性差を認めて特性を生かせる社会を作っていくべき」が72.9%（478人）を占めた。

	実数	比率
1 性差は抜きにして一人の人としての平等を目指すべき	111	16.9
2 性差を認めて特性を生かせる社会を作っていくべき	478	72.9
3 その他（※）	24	3.7
無回答	43	6.6
総 数	656	

Ⅷ-33) 男女共同参画とはどちらの社会を目指していると思いますか【複数回答あり】

n=656



※ 「3 その他」意見

回答に言及（10）	1、2 どちらも	4
	1 も 2 も違う	2
	2 が適正だが、これだと性差に多くの事をいれてしまい危険	2
	1 と 2 の間	1
	はじめに性差ありきにしてはならない	1
個々の希望に合わせる（3）	個人の希望にあわせて性差なく働ければよい	1
	個々の家庭によりアレンジできるようになればよい	1
	個人の社会的立場、嗜好、主義に応じて多選択肢から仕事や家庭を選べる社会	1
個人の特性を生かす（2）	個人の特性を生かせる社会を作っていくべき	1
	男女ではなく個々の特性を生かせるようになるとよい	1
性差を認める（2）	性差を認めたくえて1人の人として平等を目指すべき	1
	制度としては平等だが、各々の考え方で性差を認めた利用・選択もできる環境がよい	1
性差に差はない（3）	資質に差はないので、女性も諦めずに頑張るべき	1
	性差は抜きにして特性を生かせる社会を作っていくべき	1
	男女という概念を抜きにして個人の能力を評価をして平等に扱われると共に、女性であるが故の避けられない不利な点に理解とサポートのある社会であってほしい	1

妊娠・子育てに配慮（３）	妊娠・子育てに配慮しつつ、女性医師も十分に社会参画できる支援体制を社会的に作り上げていく	1
	女性は母としての役割は重要。それを生かすために、男性のサポートを必要とする	1
	家庭で話し合い、ライフワークバランスを調整しあい、子供をしっかり育てられる体制と、やりたい仕事をきちんと続けられる調整を家庭内外で行うことが必要	1
男性医師に配慮（２）	男性の長時間労働が改善されない限り平等にはならないと思う	1
	女性の地位を高めるより、男性が育児に参加できるような一般企業での意識改革をしてほしい	1
その他（１）	お金さえ稼げれば何とでもいいという意識を変える	1

IX 自由意見

自由意見の内容を項目別にまとめた。（一部重複事項あり）

子育てに関する意見まとめ

勤務時間短縮	できているから勤務可能	3
	これから入れてほしい	11
保育/ベビーシッターの整備	病院内保育	14
	医師会で整備	2
	金銭的補助	2
	労働時間の延長につながるので反対	3
小学生の保育		2
男女ともに子育てする社会（男子中高生から教育（１）		15
学校保護者会、PTAに参加しやすく		5
利用できる制度の周知		2
女性医師を支える医師へのインセンティブ		4
業務補助者雇用制度の整備		1
女性医師が交流できるスペース		2
現在育児中の医師の意見を聞いて欲しい		2
職場の意識改革が必要（育児/介護は社会に必要なもの） （男女ともに労働時間短縮、休暇を取りやすく）		13
障害児の保育環境整備		1
妊活も支援してほしい		2
女性医師の自覚が必要		6
産休補助用要員の制度		1
女性に家事育児の負担が大きいのは仕方ない		2
何らかのサポート		3

男女共同に関する意見まとめ

男性医師へのサポート	22
職場の意識改革の必要性	11
将来のライフワークバランスへの不安	8
行政サポートの整備について	8
女性が家事・育児をするのを仕方ない	5
男性にも「仕事と家庭のバランス」を求める（夫の協力）	5
女性医師すべてがバリバリ働きたいわけではない	1

性差に関する意見まとめ

女性だからと妥協しない（甘えない）	11
平等の条件に差がでるのは仕方がない	7
性差を生かせる社会になって欲しい	5
子どものころから教育すべき	2
性差による違いを感じる	2
（働き方に）男女差はない	2
男女ともに尊重し合うべき	2
女性の地位向上	3
ジェンダー格差社会に気づくべき	1
女性に対する理解が進んだ	1
男性に性差を理解してほしい	1

職場環境に関する意見まとめ

働き方の根本的改善（長時間労働・時短勤務など）	25
働く量・質に応じたインセンティブをつけることや、多少の昇格への影響が生じることを認容することも必要	7
女性医師がもっと管理職として登用されてほしい	3
専門医の取得・更新が大変	2
女性医師と女性看護師のサポート体制に差を感じる	2
周囲のサポートに感謝すべき	2
復職制度支援を希望	2
理解ある職場でよかった	1
向上心を持つべき	1

医療制度に関する意見まとめ

婚姻時の改正について（2）	医師会・医会・厚労省で対応を統一して欲しい
	改正により、論文・学会発表等のキャリアが検索できなくなる（デメリットが大きい）

その他

男性の意見も尊重すべき（男性医師もアンケートを）	7
離職を検討している	2
結婚できない・子供が欲しいけどできない人もいるのでアンケートで傷つく人もいる（20歳代・独身女性は答えづらい）	2
医師会が政府に対して無力	1
患者及び患者家族からのストーカー行為への対応	1

自由意見回答抜粋

肩身の狭い思い（妊娠・子育て）

- 十分な仕事も与えてもらえず、育児のことで何かをお願いする時は常に謝って肩身の狭い思いをして働き続けることにどれだけの意味があるのだろうと思ってしまいますことがあります。同じ待遇であったとしても、言葉のかけかたひとつで大違いなのにも思うこともあります。妊娠報告の際、下を向いて「すみません」と報告しなければならなかった時の悲しさは思い出しても辛いです。
- 自分の理想どおりに仕事が出来ない苛立ちと、他の医師と同じく仕事が出来ない疎外感を常に感じている。また、職場では仕事出来る人が認められ、家庭では特に子供に感謝されることもないことから、劣等感、自己否定のイメージを持ちやすく、そこへ毎日のオーバーワークによる蓄積疲労が重なり、うつ状態になる。
- 私の病院はおそらく他病院と比べ理解があり、急きょ子供を迎えに行かなければならない時、他の医師が協力する、また子供が小さな女性医師は当直に入らないetc検討してくれているようです。しかし、自分が結婚してその立場となった時、他医師へ「申し訳ない」という気持ちが先行してしまうことがあるかもしれません。
- 辛いのでもう仕事を辞めたいです。仕事を減らしてもらっても後ろめたいし、気を使ってもらうのも辛いです。

働き方の根本的改善

- ワークシェアリング等、働き方の根本的な改善がない限り、育児出産をしながらの勤務において男女不平等はなくならないと思います。
- 医師の世界では、まだまだ子育てしながらの仕事に理解がない。忙しすぎることで、人手が足りないことで、男性医師への負担も大きい。（女医が出産・育休の時）なので、男性医師から不満が出る気持ちも理解できる。女性医師が増えてきており、サポート体制を整えていかないとダメだと感じる。
- 女性に対しての対策よりも社会全体として労働時間が長いことに対したい策をとるべきだと思います。子育ては大変なことです、子どもを持つ女性医師の負担軽減が、その他の医師の労働強化になるようでは問題は解決しません。
- 子供を預ける場所が不足しているのも事実ですが、夜中でも病気でも子供が預けられる体制が充実したとしても、それは社会の目指す方向ではないと思います。「親の作った夕食を食べさせて、夜は親がそばにいる」ことを、周りが快く許す社会が健全だと思います
- 同じ女性医師という立場でも、家庭のサポート環境、職場の状況などでずいぶん差があります。女性医師として自分がどのように働きたいかは、かなり個人差があると思います。職場で求められているものと自分の考えに差があると、お互いにあまり良いとはいえない状況になると思

うので、それらがマッチできるといいと思う。職場でも、時間や給与を半分にし、二人で一組のような雇用形態を作って選択できるようにしてもらえるといいのかもしれないと思います。

- 日本の社会全体が、既存の制度や施設などを利用して、が基本的な考え方になっている。経済的な問題もあるが「今までのやり方を一変させる」くらいの積極性を持って考えていかないと、女性医師の能力の有効活用は無理でしょう。

行政のサポートを

- 女性医師が増えていく中で、行政のサポートは不可欠です。現場としては女性医師は、看護師、男性医師、患者すべてから男性と比べ軽視されています。しかしながら女性と言う立場を利用し、QOLを求める女性医師が増えていることも事実です。頑張る人には見合うだけのポストを与えるべきだと思います。
- 親と同居なので、何とか仕事も育児もまわっている。親のサポートがなかったら、パート勤務にせざるを得なかったと思う。院内には病児保育はないし、地域にも事前申し込みのところが一ヶ所あるのみです。友人は、①パートにする、②親に頼る、③ベビーシッターを雇うの3パターンがほとんどで、行政サービスを使っている人はほとんどいないです。(急に頼めないため)

意識改革

- 子育てと仕事の両立は本当に大変だと思っている。子育てをしている時に職場で孤立しないようにすることがたいへん大事だと思っていたが、これには本人の努力とともに周りの方々の配慮・意識改革が必要なのだと思う。子育てや介護などをしている人が、男女問わず、気は遣うが遠慮しすぎないで力を発揮できるような社会になってほしいです。
- 「女性支援＝妊娠・出産・子育てへの支援」という発想は、そろそろ転換期だと思いますが？

平等について

- 平等とは何か？公平であるべきと考える。
- 働く量・質に応じたインセンティブをつけることや、多少の昇格への影響が生じることを認容することも必要だと思います。
- 育児中のため短時間勤務や当直が出来ない人と、努力して男性と同等に働いている人が同じ権利を得ようとするのは不平等である。給料、年休、学会出張など差をつけたほうが、本当の意味での平等である。
- 当直、残業に対して十分な報酬をつけることが最も大事。そうすれば当直するDrの不公平感や当直できないDrの後ろめたさも減ると思う。
- 「育児中の身分」で「当直なし」を選択する場合、「規則」で「定まった身分」があれば軋轢は

多少軽減されるのではないかと思います。その際減給が少しあれば周りとの軋轢も多少軽減するかもしれないと思います。けれども社会保障に関しては、そのままにしていきたいです。

■男女の性差は当然あるが、そのために職場に負担をかける事があるのなら男女平等の条件（給料、勤務時間の契約など）にも差がでても仕方ないと考えます。「休みは取る、早く帰る」など必要な場合、雇用契約は男性と変えるべき。自分の要求を職場に求めるだけではダメだと考えます。

■男女で体力、適性、妊娠・出産の有無が異なるので、全くの男女平等な社会（職場）というのは無理ではないでしょうか。やはり子育てがお金も時間も手間もかかると考えますので、託児所を安くするなり、経済面で支援するなりして頂けたら助かります。妊娠中に関しても、当直はできなくなる可能性が高いので、その分収入は減ってしまいますので、やはり経済面で支援して頂ければと切に願います。代わってもらうことはできませんし、手伝ってもらえるかどうかは家庭の事情によりますので。

■年月とお金をかけて医師になっているのに子供が出来て辞める女性医師が多いのが残念です。「子育て女性医師枠」のような医師採用システムがあればいいのにと常々思います。お金は半分で良いので、そのかわり気持ちよく午後5時に仕事を切り上げられる環境作りが必要です。結局独身女性医師や男性医師の話を見ると、「同じ給料なのに」という点が根底にあるような気がします。ただ今の病院は完全に古い体制で、そのような考えは全くなさそうです。常勤で働いている子供がいる女性医師はほんのわずかです。

男性医師（夫）の協力を求める

■女性と女性を取り巻く環境には「仕事と育児のバランスが必要」と求めるのに、男性に同じ事を求めないうちは成り立たないと思います。“育児”の部分は“介護”にも置き換えられるので、「仕事と家庭のバランス」と言った方が良いでしょう。

男性医師のサポートを

■男性の長時間労働を改善しないと、女性の状況はなかなか改善しないと思います。女性ばかりを早く帰らせるようにすることで、結局女性側に家事育児負担が偏る現状について、女性が仕事を頑張るほど、その後帰宅後に家事育児に忙殺され、自分の勉強や人との付き合いや自己啓発の時間は無くなってしまうという現状について、広く世間に知ってもらいたいと思います。

■このようなアンケートを頂くと、いつでも違和感を強く感じます。アンケートに努力されている事は良く分かりますが、問題点を履き違えていると感じます。女性の問題ではなく男性の問題なのに、いつも“女性”の意識を問うたり、“女性医師を支援”する方法を考えたり、本末転倒なところに議論が帰結しています。

■女性への支援＝家事・育児を女性が行うという前提ではよくないと思います。“妻(パートナー)が働く女性”の男性を支援するシステムも同様に行うべきと考えます。

女性医師の甘え

- 女性医師だからと特別扱いして欲しくなかったし、甘えるのは良くない。しかし女性特有の事情も認めてほしいと自分の中でも矛盾している。よく意見を出し合って、納得の上で色々な事を決めていくべきで、トップダウンで決められると反発があったり嫌な思いをしたりすると思う。
- 女性医師支援事業は大変重要なものですが、それを支援された女性医師が「甘え」「あたりまえ」と思わないで、支援の必要がなくなったら次の世代の若手に同じ手をさしのべてほしい。

サポートへの感謝

- 母親が周りのサポートに感謝の意を示すことが重要です。

優遇について

- 男だから、女だからとかではなく、やれる方がやれることをすればいいとは思いますが、どうしても家事育児全般は女性がやるのが当たり前のイメージがまだまだ強いと思います。同じ職場で働いて当直も同じようにこなしているのに、夫が家事をすると「偉いね～」となるのがフラストレーションのもとです。ただ私の方が子供のために休みを取ることが出来やすい立場にあり、子供と過ごせる時間が長く取れるのはうれしいことなので、何を持って「優遇」というのかよくわかりません。

医師会に

- このアンケートの結果を受けて医師会がどのように支援事業をすすめていくのか、気になるところです。
- 女性がキャリアを伸ばし生き生きと活躍するのは、まず医師会から残業なしを進めていく事が大切ではないでしょうか？更に会議も終了時間を決め、時間内で効率よく進めることが必要と思います。
- 女性だからというのではなく、人間は一人一人違うはずです。個々の特性や違いを認め補いあうのが幸福度の高い社会と考えますが、女性であることを是とすることがあらゆるマイノリティー、ひいては社会全体のボトムアップにつながるのではないのでしょうか。医師会の勇気ある前進を期待します。

アンケートをすることに関する意見

- 一体このアンケートを誰が何を言うために使うのか想像できないが、発想がステレオタイプなので、あまり結果に期待は出来ないと思ってしまう。このアンケートの結果がどのような施策に反映されたのか、必ず文書で教えてください。
- 共同参画の先に、何を目指しているのか目指すのか、アンケートを記入していて更にわからなくなりました。

3. 考 察

はじめに

日本医師会で行われた「男女共同参画についての男性医師の意識調査」（平成26年2月公表）（以下略「男性医師の意識調査」）（※1）を参考に、女性医師が生涯、医師として働き続けるために、現在置かれている状況、直面する問題やそれに対する要望・意見を調査することを目的に行った。

なお、本会調査では、「千葉県医師会会員」及び「病院」を対象としたため、「開業医」の回答が含まれる。そのため、「男性医師の意識調査」の調査対象とは若干違いがあるが、比較をして調査結果を検討してみた。

「男性の意識調査」との比較は下記の通りである。

	女性医師の調査（本会）	男性医師の調査（日医）
調 査 対 象	千葉県医師会会員（開業・勤務） 及び病院施設（656人）	全国の臨床研修病院（6,946人） （千葉県227人）
年 齢	「30歳台」 33.2% 「40歳台」 24.4% 「50歳台」 14.6%	「30歳台」 24.0% 「40歳台」 30.2% 「50歳台」 27.6%
結 婚	「既婚」 59.4%	「既婚」 87.1%
配偶者・パートナーの職業	「医師」 63.1%	「医師」 16.7% 「専業主婦」 61.5%
子 ども と の 同 居	39.5%	63.6%
子どもとの同居（内容）	「未就学児」 47.1% 「小学生」 27.8% 「中学生以上」 41.3%	「未就学児」 33.6% 「小学生」 28.3% 「中学生以上」 38.1%
勤 務 先	「病院」 68.0% 「診療所」 28.4%	「病院」のみ
診 療 科	「内科」 28.5% 「小児科」 16.6%	「内科」 28.4% 「外科」 13.9%
役 職	「診療部長」 4.6% 「役職なし」 38.4%	「診療部長」 35.0% 「役職なし」 25.5%
当 直	「当直なし」 56.7% 「月1回～週1回未満」 17.7%	「当直なし」 29.3% 「月1回～週1回未満」 42.7%
労 働 時 間 （ 本 人 ）	「10時間以上12時間未満」 39.6% 「12時間以上14時間未満」 30.8%	「9時間以上12時間未満」 21.9% 「12時間以上15時間未満」 62.4%
労 働 時 間 （配偶者・パートナー）	「12時間以上14時間未満」 41.6% 「14時間以上16時間未満」 25.6%	「9時間以上12時間未満」 50.6% 「12時間以上15時間未満」 20.6%
ワークライフバランス	「とれている」 47.9% 「とれていない」 38.0%	「とれている」 38.1% 「とれていない」 49.7%
ワークライフバランス とれない理由	「仕事の比重が重く、家事や育児に関 われない」 63.5%	「仕事の比重が重く、家事や育児に関 われない」 91.3%
ワークライフバランス とるために必要なもの	「家族の協力」 72.4% 「職場の上司の理解」 60.8% 「職場の仲間の理解」 64.6%	「家族の協力」 50.7% 「職場の上司の理解」 48.5% 「職場の仲間の理解」 51.0%

	女性医師の調査（本会）	男性医師の調査（日医）
家庭での家事分担（理想）	男女同程度 （「家の修繕・修理」以外）	男女同程度 （「家の修繕・修理」以外）
家庭での家事分担（現実）	女性の割合が多い （「家の修繕・修理」以外）	女性の割合が多い （「家の修繕・修理」以外）
家事の役割分担	「充分」 48.0% 「まだ足りない」 32.8% 「まったくしていない」 15.4%	「充分」 26.8% 「まだ足りない」 50.1% 「まったくしていない」 23.1%
家庭における役割	「現状のまま」 53.9% 「改善」 41.7%	「現状のまま」 56.8% 「改善」 43.2%
介護をしている人	8.5%	7.0%
だれが介護をしているのか	「ご自身」 76.8% 「配偶者・パートナー」 21.4%	「ご自身」 51.3% 「配偶者・パートナー」 64.7%
介護の対象	「自分の親」 66.1% 「配偶者・パートナーの親」 32.1%	「自分の親」 72.8% 「配偶者・パートナーの親」 29.7%
介護に要する時間	「10時間以内」 44.6%	「10時間以内」 70.2%
子どもの保育状況	「保育園に預けている」 86.9%	「自宅で配偶者・パートナーがみている」 56.9% 「保育園に預けている」 40.1%
育児休暇	「とった」 62.3% 「とらなかった」 36.1%	「とった」 2.6% 「とらなかった」 97.4%
育児休暇の取得について	「考えたことがなかった」 11.5%	「考えたことがなかった」 82.6%
育児休暇とった期間	「90日以内」 27.0% 「180日以内」 22.2%	「30～99日」 20.8% 「7日」 7.2% 「10～29日」 13.5%
育児の分担	「充実」 43.4% 「足りない」 44.3%	「充実」 21.0% 「足りない」 54.4%
育児の行政サービス	「利用したことはない」が「利用したことがある」を大きく上回る	
男女の地位（社会全体）	「どちらかといえば男性」 45.4%	「どちらかといえば男性」 45.7%
男女の地位（現在の職場）	「平等」 42.7%	「平等」 43.3%
職場の女性医師の支援	「十分」 23.0% 「やや不十分」 25.5% 「不十分」 23.8%	「十分」 18.5% 「やや不十分」 32.4% 「不十分」 25.1%
男女共同参画社会	「性差を認めて特性を生かせる社会」 72.9%	
ハラスメント	「経験がある」 45.4%	「ハラスメント」の設問なし
ハラスメントの内容	「バワハラ」 62.1% 「セクハラ」 34.2%	
相手側の性別	「男性」 64.1%	
相手側の立場	「上司」 58.7%	

本会調査の「女性医師」の年齢は、「30歳台」と「40歳台」を合わせると5割を超え、既婚者は全体の約6割だった。なお、「女性医師」の配偶者・パートナーの職業は6割が医師であった。子どもとの同居は約4割で、そのうち「未就学児」と「小学生」で7割を超えている。勤務先は、病院が約7割、約3割が診療所だった。なお、「千葉県医師会員」は、診療所開業会員が多いため、

「診療所」と回答した者の多くは開業会員だと思われる。

一方、「男性医師の意識調査」の回答の「男性医師」は、全体的な医師数の違いも関係するかもしれないが「50歳台」が約3割いた。その年齢層の違いもあるのか、既婚者が9割近くおり、子どもとの同居も6割を超えている。なお、「男性医師」の配偶者・パートナーの職業は6割が「専業主婦」であるところが「女性医師」との大きな違いである。

大きな違いはもう一つあり、「当直」について、「女性医師」は「当直なし」が5割を超えているところ、「男性医師」は「月1回～週1回未満」が4割を超えている。なお、「女性医師」の「当直なし」が多いのは、回答者の約3割が「診療所」勤務ということもあるかもしれない。

出勤時間と帰宅時間から割り出した「労働時間」についても、「女性医師」は、「10時間以上12時間未満」が39.6%と最も多かったが、「男性医師」は「12時間以上15時間未満」が62.4%と最も多く、「労働時間」のピークに差があった。しかし、いずれも基準の8時間/1日を超過しており、医師の長時間労働の全体がみえる。

ワークライフバランス

「ワークライフバランス」については、「女性医師」で「ワークライフバランスがとれていない」と回答のあった6割以上が、「仕事の比重が重く、家事や育児に関われない」と答えており、9割以上の回答があった「男性医師」と同じく「仕事の拘束時間の長さ」の実態が垣間見える。なお、自由意見では働き方の根本的改善を求める記載が多かった。

ワークライフバランスをとるために必要だと思うものについては、「家族の協力」という「女性医師」の回答が72.4%あった。「女性医師」の配偶者・パートナーの約6割が医師であることを考えると、自由意見で「男性医師」へのサポートの要望について記載が多いのも理解が出来る。若い世代の育児に対する意識が変わってきていることを考えると、今後は、男女を問わず支援策を考えていかなければいけない。また、「職場の上司の理解」や「職場の仲間の理解」という回答も共に6割を超え、自由意見で記載があったように、支援策を考える際は、「職場の意識改革」も含めて検討していくべきだと思う。なお、「ワークライフバランス」をとるために必要だと思うものについての回答率は、いずれも「女性医師」が「男性医師」を上回っており、「女性医師」の関心の高さを感じる。

家事分担

「女性医師」の家庭での家事分担については、「理想」では「男女同程度」の希望が多いが、「現実」は「家の修繕・修理」以外は、圧倒的に女性の割合が多くなっている。しかし、「家事の役割分担」について、「女性医師」の48.0%が「充分」と回答している。「男性医師」の50.1%が「家事の役割分担」について「まだ足りない」と回答しているが、「家庭における役割」については、「現状のままで良いと思う」が両者ともに5割を超えている。

介 護

介護に関しては、介護をしていると回答した「女性医師」が56人（全回答者の8.5%）おり、その内「ご自身」で介護をしているという「女性医師」が76.8%いた。一方「男性医師」も介護をしていると回答した人が7.0%おり、「ご自身」で介護をしている「男性医師」が51.3%、「配偶者・パートナー」が64.7%だった。社会でも介護離職率が問題になっているので、介護支援についても今後検討していくべきだと思われる。

育 児

育児については、「育児休暇をとった」という「女性医師」が62.3%いたが、「希望があったが職場に言い出せなかった」という回答も11.5%あった。一方、「育児休暇をとった」男性医師は2.6%で、「希望があったが言い出せなかった」という回答は14.0%だった。「育児休暇をとった」差は歴然だったが、「希望があったが言い出せなかった」者の割合はほぼ同数だった。

自由記載欄でも、妊娠・出産・育児による業務の負担軽減分が、同僚に負担をかけることについて、肩身の狭い思いを抱く意見が目立った。しかし、一方で、周りのサポートに感謝の意を示すべきとの意見もあり、周囲に配慮しつつも、遠慮しすぎないで力を発揮できるように、職場の意識改革も必要であると思われる。また、自営クリニックの場合は、代診の紹介希望があった。開業会員が多い本会としては、「医師会」として協力できる事を考えていきたいと思う。

育児に関する行政サービスについては、利用したことがある回答者が、「ファミリーサポート」（16.4%）、「保育ママ」（2.5%）、「ベビーシッター」（26.2%）といずれも少数で、「時間的に利用しづらい」、「利用に不安」があるという意見が多く、「病児保育」などの「サービスの整備・拡充」を求める意見も目立った。行政サービスをよりよく利用できるように、行政との話し合いの必要性を感じた。

女性医師の支援

職場の女性医師の支援については、男女共に約5割が「やや不十分」「不十分」と回答しており、今後、支援について検討していかなければいけない状況がよく理解できた。

ハラスメント

また、本会独自の設問として、「ハラスメント」について調査をした。ハラスメントを受けて「嫌な思いをした」という回答が4割を超え、その回答の中の62.1%が「パワーハラスメント」だった。なお、ハラスメントで「嫌な思いをした」と回答したうちの64.1%が相手側の性別を「男性」、58.7%が「上司」と答えている。なお、「平成24年度 厚生労働省委託事業「職場のパワーハラスメントに関する実態調査報告書」（※2）によると「パワーハラスメント行為をした人の関係」では、「上司から部下へ」が67.7%あり、本会の調査とほぼ同じだった。千葉県内の医師数の8割が男性（※3）であることを考えると、相手側の性別の6割以上が男性になってしまうのも理解できる。

結 語

今回の調査により、女性医師が生涯、医師として働き続けるためには、「出産・育児」、「家族の介護」などのライフイベントの際に支援を必要としており、検討していかなければいけない状況がわかった。しかし、その支援の際には、他の医師の労働強化にならないように調整していくことが必要である。自由意見では、「働く量・質に応じたインセンティブをつけることや、多少の昇格への影響が生じることを認容することも必要」という意見があった。育児をしている女性医師から、差をつけてもらった方が働きやすいという意見もあり、育児者と非育児者の不和解消にはそのような「差」が「平等」につながるのかもしれない。

女性医師として自分がどのように働きたいかは個人差があり、自分にあった働き方が選択出来るような支援が出来るように検討していきたいと思う。

- ※ 1 日本医師会【男女共同参画についての男性医師の意識調査報告書】（平成26年 2 月公表）
(<http://dl.med.or.jp/dl-med/female/men201402.pdf>)
- ※ 2 平成24年度 厚生労働省委託事業「職場のパワーハラスメントに関する実態調査報告書」
(<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002qx6t.html>)
- ※ 3 千葉県庁HP 千葉県発表「平成24年医師・歯科医師・薬剤師調査の概況」
(https://www.pref.chiba.lg.jp/kenshidou/toukeidata/kakushukousei/24_ishi.html)

4. 活動方針

平成27年度 アンケート結果から

千葉県医師会男女共同参画推進委員会 活 動 方 針

1、ひとりの人間として、あたりまえに生きていくための支援をします

- ・医学生・研修医のうちから、将来を具体的に考えられる情報が得られる機会を提供します。
- ・ライフイベント（結婚、出産、育児、介護）とキャリアデザインを、どのように組み合わせるかを考える機会を提供します。

2、働き続けることのできる職場づくりを応援します

- ・ライフイベントなどで、離職を考えなくてもよい職場、休職の後復帰のしやすい職場の実現を応援します。

3、地域の様々なサービスの質と量の確保をめざし、その情報を提供します

- ・現在、ライフイベントの際に利用できる「サービス」（託児、家事援助など）の情報を提供できるように整理し、周知します。
- ・また、「サービス」の質と量の確保のため、必要に応じてサービス提供者と連携します。

以上を千葉県医師会に提案し、男女共同参画推進委員会の活動方針としたいと思います。

5. 集計表（男女比較）

※「男性」については、日本医師会【男女共同参画についての男性医師の意識調査報告書】（平成26年2月実施）のデータを使用させていただいた。

I. ご自身について

I-1) 年齢

女性	実数	比率
30歳未満	86	13.1
30歳台	218	33.2
40歳台	160	24.4
50歳台	96	14.6
60歳以上	94	14.3
無回答	2	0.3
総 数	656	100.0

男性	実数	比率
20歳台	578	8.4
30歳台	1,658	24.0
40歳台	2,089	30.2
50歳台	1,911	27.6
60歳台	683	9.9
総 数	6,919	100.0

I-2) 結婚について

女性	実数	比率
未婚	208	31.7
既婚（配偶者と同居）	355	54.1
既婚（配偶者と別居）	35	5.3
未婚だがパートナーと同居している	14	2.1
離別・死別	43	6.6
無回答	1	0.2
総 数	656	100.0

男性	実数	比率
未婚	802	11.6
既婚（配偶者と同居）	5,746	82.9
既婚（配偶者と別居）	289	4.2
未婚だがパートナーと同居している	29	0.4
離別・死別	64	0.9
総 数	6,930	100.0

I-3) 配偶者・パートナーの職業

女性	実数	比率
医師	255	63.1
医師以外	127	31.4
主夫	11	2.7
無回答	11	2.7
総 数	404	100.0

男性	実数	比率
医師	991	16.7
医師以外	1,296	21.8
専業主婦	3,660	61.5
総 数	5,947	100.0

I-3) 同居している家族【複数回答】

女性	実数	比率
配偶者	353	53.8
親	62	9.5
同居人	15	2.3
子ども	259	39.5
無回答	220	33.5
総 数	656	

男性	実数	比率
配偶者	5,746	84.8
親（義理を含む）	444	6.6
配偶者、親以外の親族	91	1.3
子ども	4,305	63.6
その他	38	0.6
単身世帯	864	12.8
総 数	6,773	

I－3) 同居している子どもの有無【複数回答】

女性	実数	比率
未就学児	122	47.1
小学生	72	27.8
中学生以上	107	41.3
無回答	6	2.3
総 数	259	

男性	実数	比率
未就学児	1,844	33.6
小学生	1,554	28.3
中学生以上	2,092	38.1
総 数	5,490	

II. 勤務先・勤務状況について

II－4) 勤務病院の規模

女性	実数	比率
500床以上	224	34.1
200～499床	172	26.2
100～199床	26	4.0
100床未満	24	3.7
診療所	186	28.4
その他	6	0.9
無回答	18	2.7
総 数	656	100.0

男性	実数	比率
500床以上	2,563	37.2
200～499床	3,981	57.8
100～199床	329	4.8
100床未満	11	0.2
総 数	6,884	100.0

II－5) 診療科【複数回答あり】

女性	実数	比率
内科	187	28.5
精神科	37	5.6
産婦人科	57	8.7
泌尿器科	3	0.5
麻酔科	39	5.9
救急科	11	1.7
小児科	109	16.6
外科	28	4.3
眼科	48	7.3
脳神経外科	2	0.3
病理	7	1.1
形成外科	14	2.1
皮膚科	39	5.9
整形外科	11	1.7
耳鼻咽喉科	23	3.5
放射線科	14	2.1
臨床検査	0	0.0
リハビリテーション	12	1.8
総合診療科	6	0.9
研修期間中	35	5.3
その他	22	3.4
無回答	7	1.1
総 数	656	

男性	実数	比率
内科	1,966	28.4
精神科	208	3.0
産婦人科	324	4.7
泌尿器科	310	4.5
麻酔科	229	3.3
救急	117	1.7
小児科	468	6.8
外科	962	13.9
眼科	128	1.9
脳神経外科	289	4.2
皮膚科	122	1.8
整形外科	493	7.1
耳鼻咽喉科	180	2.6
放射線科	182	2.7
研修期間中	296	4.3
その他	699	10.1
総 数	6,914	

Ⅱ－６）役職

女性	実数	比率
管理者	148	22.6
診療部長	30	4.6
指導的な立場の職	108	16.5
役職なし	252	38.4
臨床研修医	58	8.8
その他	50	7.6
無回答	10	1.5
総 数	656	100.0

男性	実数	比率
管理者	720	10.5
診療部長	2,411	35.0
臨床研修指導医	1,271	18.5
役職なし	1,757	25.5
臨床研修医	358	5.2
その他	578	8.4
総 数	6,881	

※男性、複数回答あり

Ⅱ－７）当直

女性	実数	比率
週２回以上	59	9.0
週１回	102	15.5
月１回～週１回未満	116	17.7
当直なし	372	56.7
無回答	7	1.1
総 数	656	100.0

男性	実数	比率
週２回以上	485	7.0
週１回	1,448	21.0
月１回～週１回未満	2,949	42.7
当直なし	2,019	29.3
総 数	6,901	100.0

Ⅱ－８）出勤時間

女性	実数	比率
６時台以前	74	11.3
７時台	300	45.7
８時台	223	34.0
９時台以降	36	5.5
不定期・自宅	3	0.5
無回答	20	3.0
総 数	656	100.0

男性	実数	比率
０時	0	0.0
１時	1	0.0
２時	0	0.0
３時	1	0.0
４時	4	0.1
５時	90	1.3
６時	911	13.3
７時	3,849	56.0
８時	1,992	29.0
９時	23	0.3
10時	0	0.0
11時	0	0.0
12時	0	0.0
13時	0	0.0
14時	0	0.0
15時	0	0.0
16時	1	0.0
17時	1	0.0
18時	0	0.0
19時	1	0.0
20時	0	0.0
21時	0	0.0
22時	0	0.0
23時	1	0.0
総 数	6,875	100.0

Ⅱ－８）帰宅時間

女性	実数	比率
16時台以前	21	3.2
17時台	27	4.1
18時台	142	21.6
19時台	185	28.2
20時台	117	17.8
21時台	66	10.1
22時台以降	69	10.5
不定期・自宅	3	0.5
無回答	26	4.0
総 数	656	100.0

男性	実数	比率
0 時	107	1.6
1 時	19	0.3
2 時	2	0.0
3 時	3	0.0
4 時	1	0.0
5 時	0	0.0
6 時	0	0.0
7 時	0	0.0
8 時	1	0.0
9 時	0	0.0
10時	0	0.0
11時	0	0.0
12時	1	0.0
13時	0	0.0
14時	0	0.0
15時	2	0.0
16時	1	0.0
17時	59	0.9
18時	671	9.8
19時	1,811	26.4
20時	1,901	27.7
21時	1,301	19.0
22時	711	10.4
23時	270	3.9
総 数	6,861	100.0

Ⅱ－８）労働時間（本人）

女性	実数	比率
2 時間以上 4 時間未満	1	0.2
4 時間以上 6 時間未満	5	0.8
6 時間以上 8 時間未満	13	2
8 時間以上10時間未満	60	9.6
10時間以上12時間未満	247	39.6
12時間以上14時間未満	192	30.8
14時間以上16時間未満	81	13
16時間以上18時間未満	23	3.7
18時間以上	1	0.2
合 計	623	100

男性	実数	比率
3 時間未満	2	0.0
3 時間以上～ 6 時間未満	1	0.0
6 時間以上～ 9 時間未満	8	0.1
9 時間以上～12時間未満	1,504	21.9
12時間以上～15時間未満	4,289	62.4
15時間以上～18時間未満	1,021	14.9
18時間以上～21時間未満	34	0.5
21時間以上	2	0.0
不明	14	0.2
総 数	6,875	100.0

Ⅱ－８）配偶者・パートナーの出勤時間

女性	実数	比率
6 時台以前	59	16.0
7 時台	151	40.9
8 時台	91	24.7
9 時台以降	15	4.1
不定期・自宅	17	4.6
無回答	36	9.8
総 数	369	100.0

男性	実数	比率
0 時	0	0.0
1 時	0	0.0
2 時	0	0.0
3 時	0	0.0
4 時	1	0.1
5 時	5	0.3
6 時	35	2.0
7 時	444	25.9
8 時	896	52.2
9 時	256	14.9
10時	39	2.3
11時	8	0.5
12時	11	0.6
13時	9	0.5
14時	6	0.3
15時	1	0.1
16時	0	0.0
17時	2	0.1
18時	1	0.1
19時	0	0.0
20時	2	0.1
21時	0	0.0
22時	0	0.0
23時	0	0.0
総 数	1,716	100.0

Ⅱ－８）配偶者・パートナーの帰宅時間

女性	実数	比率
16時台以前	8	2.2
17時台	6	1.6
18時台	32	8.7
19時台	63	17.1
20時台	66	17.9
21時台	72	19.5
22時台以降	66	17.9
不定期・自宅	15	4.1
無回答	41	11.1
総 数	369	100.0

男性	実数	比率
0 時	13	0.8
1 時	0	0.0
2 時	0	0.0
3 時	0	0.0
4 時	0	0.0
5 時	0	0.0
6 時	0	0.0
7 時	0	0.0
8 時	0	0.0
9 時	0	0.0
10時	0	0.0
11時	1	0.1
12時	5	0.3
13時	71	4.2
14時	81	4.8
15時	83	4.9
16時	93	5.5
17時	244	14.3
18時	479	28.1
19時	312	18.3
20時	204	12.0
21時	71	4.2
22時	38	2.2
23時	8	0.5
総 数	1,703	100.0

Ⅱ－８）配偶者・パートナーの労働時間

女性	実数	比率
6 時間以上 8 時間未満	4	1.3
8 時間以上10時間未満	11	3.5
10時間以上12時間未満	66	20.9
12時間以上14時間未満	131	41.6
14時間以上16時間未満	81	25.6
16時間以上	23	13.7
合 計	316	100

男性	実数	比率
3 時間未満	2	0.1
3 時間以上～ 6 時間未満	126	7.3
6 時間以上～ 9 時間未満	318	18.5
9 時間以上～12時間未満	869	50.6
12時間以上～15時間未満	353	20.6
15時間以上～18時間未満	34	2.0
18時間以上～21時間未満	0	0.0
21時間以上	0	0.0
不明	15	0.9
総 数	1,717	100.0

Ⅲ ワークライフバランスについて

Ⅲ－９）現在のご自身のワークライフバランス

女性	実数	比率
バランスがとれている	314	47.9
バランスがとれていない	249	38.0
わからない	81	12.3
無回答	12	1.8
総 数	656	100.0

男性	実数	比率
バランスがとれている	2,630	38.1
バランスがとれていない	3,427	49.7
わからない	841	12.2
総 数	6,898	100.0

Ⅲ－10）（バランスがとれていない方）【複数回答あり】

女性	実数	比率
家事や育児の負担が大きく、 身体的にきつい	48	19.3
家事や育児の負担が大きく、 仕事に支障がある	25	10.0
仕事の比重が重く、家事や育 児には関われない	158	63.5
その他（※）	38	15.3
無回答	3	1.2
総 数	249	

男性	実数	比率
家事や育児の負担が大きく、 身体的にきつい	64	1.9
家事や育児の負担が大きく、 仕事に支障がある	90	2.6
仕事の比重が重く、家事や育 児には関われない	3,104	91.3
わからない	157	4.7
総 数	3,400	

Ⅲ－11）ワークライフバランスをとるために必要だと思うものは【複数回答】

女性	実数	比率
家族の協力	475	72.4
お金	290	44.2
職場の上司の理解	399	60.8
職場の仲間の理解	424	64.6
その他（※）	95	14.5
無回答	34	5.2
総 数	656	

男性	実数	比率
家族の協力	3,362	50.7
お金	2,840	42.8
職場の上司の理解	3,219	48.6
職場の仲間の理解	3,381	51.0
その他	1,493	22.5
総 数	6,628	

Ⅲ－12）（配偶者・パートナーと同居している方）ワークライフバランスについて

女性	実数	比率
普段から話し合っており、解 決策が出てくる	181	49.1
話し合っているが、言い争い になることが多い	63	17.1
話さない	104	28.2
無回答	21	5.7
総 数	369	100.0

男性	実数	比率
普段から話し合っており、解 決策が出てくる	1,970	35.8
話し合っているが、言い争い になることが多い	885	16.1
話さない	2,649	48.1
総 数	5,504	100.0

V 家庭での家事分担について

V-A. 理想

女性	実数						比率					
	男性の方が 多い	女性の方が 多い	男女同じ 程度	そ の 他	無 回 答	総 数	男性の方が 多い	女性の方が 多い	男女同じ 程度	そ の 他	無 回 答	総 数
食事の仕度	14	243	313	15	71	656	2.1	37.0	47.7	2.3	10.8	100.0
食事の片付け	68	94	408	14	72	656	10.4	14.3	62.2	2.1	11.0	100.0
掃除	31	104	430	16	75	656	4.7	15.9	65.5	2.4	11.4	100.0
ゴミだし	137	46	384	16	73	656	20.9	7.0	58.5	2.4	11.1	100.0
洗濯	21	178	367	13	77	656	3.2	27.1	55.9	2.0	11.7	100.0
食品・日用品の買い物	17	179	364	17	79	656	2.6	27.3	55.5	2.6	12.0	100.0
家の修繕・修理	298	24	239	21	74	656	45.4	3.7	36.4	3.2	11.3	100.0
家計管理	29	171	360	18	78	656	4.4	26.1	54.9	2.7	11.9	100.0
子どもの世話・指導	7	135	410	15	89	656	1.1	20.6	62.5	2.3	13.6	100.0
乳幼児の世話	6	233	313	14	90	656	0.9	35.5	47.7	2.1	13.7	100.0
保育園の送り迎え	25	90	434	17	90	656	3.8	13.7	66.2	2.6	13.7	100.0
親の世話	6	52	487	27	84	656	0.9	7.9	74.2	4.1	12.8	100.0
学校等の役員	29	107	402	27	91	656	4.4	16.3	61.3	4.1	13.9	100.0
地域の役員等	77	50	412	33	84	656	11.7	7.6	62.8	5.0	12.8	100.0

男性	実数					比率				
	主 に 男 性	主 に 女 性	男 女 同 じ 程 度	そ の 他	総 数	主 に 男 性	主 に 女 性	男 女 同 じ 程 度	そ の 他	総 数
食事の仕度	29	4,549	1,520	164	6,262	0.5	72.6	24.3	2.6	100.0
食事の片付け	444	2,626	3,052	144	6,266	7.1	41.9	48.7	2.3	100.0
掃除	134	3,009	2,959	150	6,252	2.1	48.1	47.3	2.4	100.0
ゴミだし	1,721	1,413	2,975	158	6,267	27.5	22.5	47.5	2.5	100.0
洗濯	87	3,728	2,303	145	6,263	1.4	59.5	36.8	2.3	100.0
食品・日用品の買い物	101	2,906	3,098	148	6,253	1.6	46.5	49.5	2.4	100.0
家の修繕・修理	3,585	474	1,809	394	6,262	57.3	7.6	28.9	6.3	100.0
家計管理	601	2,858	2,614	174	6,247	9.6	45.7	41.8	2.8	100.0
子どもの世話・指導	32	1,716	4,157	163	6,068	0.5	28.3	68.5	2.7	100.0
乳幼児の世話	15	3,177	2,521	188	5,901	0.3	53.8	42.7	3.2	100.0
保育園の送り迎え	125	2,370	3,036	302	5,833	2.1	40.6	52.0	5.2	100.0
親の世話	78	961	4,513	414	5,966	1.3	16.1	75.6	6.9	100.0
学校等の役員	248	1,985	3,235	508	5,976	4.1	33.2	54.1	8.5	100.0
地域の役員等	672	1,392	3,432	541	6,037	11.1	23.1	56.8	9.0	100.0

V-B. 現実

女性	実数						比率					
	男性の方が 多い	女性の方が 多い	男女同じ 程度	そ の 他	無 回 答		男性の方が 多い	女性の方が 多い	男女同じ 程度	そ の 他	無 回 答	
食事の仕度	32	311	37	8	87	475	6.7	65.5	7.8	1.7	18.3	100.0
食事の片付け	58	244	82	4	87	475	12.2	51.4	17.3	0.8	18.3	100.0
掃除	42	269	69	7	88	475	8.8	56.6	14.5	1.5	18.5	100.0
ゴミだし	152	157	71	7	88	475	32.0	33.1	14.9	1.5	18.5	100.0
洗濯	40	256	85	4	90	475	8.4	53.9	17.9	0.8	18.9	100.0
食品・日用品の買い物	33	258	92	3	89	475	6.9	54.3	19.4	0.6	18.7	100.0
家の修繕・修理	176	115	73	18	93	475	37.1	24.2	15.4	3.8	19.6	100.0
家計管理	44	214	100	14	103	475	9.3	45.1	21.1	2.9	21.7	100.0
子どもの世話・指導	4	221	59	29	162	475	0.8	46.5	12.4	6.1	34.1	100.0
乳幼児の世話	2	237	32	38	166	475	0.4	49.9	6.7	8.0	34.9	100.0
保育園の送り迎え	14	206	44	42	169	475	2.9	43.4	9.3	8.8	35.6	100.0
親の世話	9	128	107	68	163	475	1.9	26.9	22.5	14.3	34.3	100.0
学校等の役員	11	185	28	69	182	475	2.3	38.9	5.9	14.5	38.3	100.0
地域の役員等	44	138	58	67	168	475	9.3	29.1	12.2	14.1	35.4	100.0

男性	実数					比率				
	主 に 男 性	主 に 女 性	男 女 同 じ 程 度	そ の 他	総 数	主 に 男 性	主 に 女 性	男 女 同 じ 程 度	そ の 他	総 数
食事の仕度	63	5,261	259	53	5,636	1.1	93.3	4.6	0.9	100.0
食事の片付け	388	4,156	1,043	47	5,634	6.9	73.8	18.5	0.8	100.0
掃除	203	4,612	740	67	5,622	3.6	82.0	13.2	1.2	100.0
ゴミだし	1,937	2,615	1,005	75	5,632	34.4	46.4	17.8	1.3	100.0
洗濯	163	4,862	564	46	5,635	2.9	86.3	10.0	0.8	100.0
食品・日用品の買い物	182	4,127	1,251	65	5,625	3.2	73.4	22.2	1.2	100.0
家の修繕・修理	3,001	1,031	1,140	444	5,616	53.4	18.4	20.3	7.9	100.0
家計管理	833	3,689	1,007	83	5,612	14.8	65.7	17.9	1.5	100.0
子どもの世話・指導	39	3,517	1,296	244	5,096	0.8	69.0	25.4	4.8	100.0
乳幼児の世話	19	3,988	405	336	4,748	0.4	84.0	8.5	7.1	100.0
保育園の送り迎え	82	3,430	532	542	4,586	1.8	74.8	11.6	11.8	100.0
親の世話	126	1,787	1,810	1,086	4,809	2.6	37.2	37.6	22.6	100.0
学校等の役員	133	3,298	599	813	4,843	2.7	68.1	12.4	16.8	100.0
地域の役員等	594	2,550	904	924	4,972	11.9	51.3	18.2	18.6	100.0

V-19) (配偶者、パートナーと同居の方) 家事の役割分担

女性	実数	比率
十分やっていると思う	177	48.0
まだ足りないと思う	121	32.8
まったくしていないと思う	57	15.4
無回答	14	3.8
総 数	369	100.0

男性	実数	比率
充分やっていると思う	1,484	26.8
まだ足りないと思う	2,780	50.1
まったくしていないと思う	1,282	23.1
総 数	5,546	100.0

V-20) (配偶者、パートナーと同居の方) 家庭における役割

女性	実数	比率
現状のままで良いと思う	199	53.9
改善した方がよいと思う	154	41.7
無回答	16	4.3
総 数	369	100.0

男性	実数	比率
現状のままで良いと思う	3,112	56.8
改善した方がよいと思う	2,367	43.2
総 数	5,479	100.0

VI 介護について

VI-21) どなたを介護していますか【複数回答あり】

女性	実数	比率
自分の親	37	66.1
配偶者・パートナーの親	18	32.1
その他	5	8.9
総 数	56	

男性	実数	比率
自分の親	353	72.8
配偶者・パートナーの親	144	29.7
その他	20	4.1
総 数	485	

VI-22) だれが介護をしていますか【複数回答あり】

女性	実数	比率
ご自身	43	76.8
配偶者・パートナー	12	21.4
その他	18	32.1
総 数	56	

男性	実数	比率
ご自身	250	51.3
配偶者・パートナー	315	64.7
その他の家族	141	29.0
ヘルパー	114	23.4
その他	67	13.8
総 数	487	

VI-23) 1週間で介護に要する時間

女性	実数	比率
10時間以内	25	44.6
20時間以内	12	21.4
30時間以内	5	8.9
40時間以内	2	3.6
90時間以内	2	3.6
90時間以上	1	1.8
無回答	10	17.8
総 数	56	100.0

男性	実数	比率
1 時間	74	17.9
2 時間	70	16.9
3 時間	44	10.7
4 時間	24	5.8
5 時間	24	5.8
6 時間	20	4.8
7 時間	21	5.1
8 時間	11	2.7
9 時間	2	0.5
10時間以上	123	29.8
総 数	413	100.0

VII 育児について

VII-24) お子さんの保育状況【複数回答あり】

女性	実数	比率
保育園に預けている	106	86.9
自宅で配偶者・パートナー	0	0.0
自宅でベビーシッターを利用	11	9.0
自宅で配偶者・パートナー以外の家族	12	9.8
無回答	3	2.5
総 数	122	

男性	実数	比率
保育園に預けている	728	40.1
自宅で配偶者・パートナーがみている	1,033	56.9
自宅でベビーシッターを利用している	9	0.5
自宅で配偶者・パートナー以外の家族がみている	45	2.5
総 数	1,815	

VII-25) (保育園に預けている方) 保育園について【複数回答あり】

女性	実数	比率
院内の保育園	34	27.9
院外の認可保育園	61	50.0
院外の無認可保育園	14	11.5
無回答	16	13.1
総 数	122	

男性	実数	比率
院内の保育園	115	15.8
院外の認可保育園	485	66.7
院外の無認可保育園	127	17.5
総 数	727	

VII-26) 育児休暇について

女性	実数	比率
育児休暇をとった(※)	76	62.3
育児休暇をとらなかった	44	36.1
無回答	2	1.6
総 数	122	100.0

男性	実数	比率
育児休暇をとった	110	2.6
育児休暇をとらなかった	4,176	97.4
総 数	4,286	100.0

※ 育児休暇をとった期間【複数回答あり】

女性	実数	比率
90日(3カ月)以内	17	27.0
120日(4カ月)以内	8	12.7
150日(5カ月)以内	8	12.7
180日(6カ月)以内	14	22.2
210日~270日(7~9カ月)以内	7	11.1
365日(1年)	7	11.1
366日以上(最大480日)	2	0.3
総 数	63	

※複数記載されている場合は多い方を集計

男性	実数	比率
1日	6	6.3
2日	121	2.5
3日	8	8.3
4日	2	2.1
5日	9	9.4
6日	1	1.0
7日	17	17.7
8日	0	0.0
9日	1	1.0
10~29日	13	13.5
30~99日	20	20.8
100日以上	7	7.3
総 数	96	

VII-27) 育児休暇の取得について

女性	実数	比率
自分の意志で取得した	75	61.5
配偶者・パートナーに頼まれて取得を決めた	2	1.6
配偶者・パートナーに頼まれたが取得しなかった	1	0.8
希望はあったが職場に言い出せなかった	14	11.5
考えたことがなかった	14	11.5
無回答	16	13.1
総 数	122	100.0

男性	実数	比率
自分の意思で取得した	97	2.6
配偶者・パートナーに頼まれて取得を決めた	7	0.2
配偶者・パートナーに頼まれたが取得しなかった	21	0.6
希望はあったが職場に言い出せなかった	524	14.0
考えたことがなかった	3,090	82.6
総 数	3,739	100.0

VII-28) 育児の分担について

女性	実数	比率
充実していると思う	53	43.4
まだ足りないと思う	54	44.3
まったくしていないと思う	11	9.0
無回答	4	3.3
総 数	122	100.0

男性	実数	比率
充分していると思う	887	21.0
まだ足りないと思う	2,294	54.4
まったくしていないと思う	1,034	24.5
総 数	4,215	100.0

VIII 男女共同参画社会に関する意識について

VIII-30) 社会全体において、男女の地位は平等になっていると思いますか

女性	実数	比率
男性	210	32.0
どちらかと言えば男性	298	45.4
平等	47	7.2
どちらかと言えば女性	15	2.3
女性	4	0.6
わからない	56	8.5
無回答	26	4.0
総 数	656	100.0

男性	実数	比率
男性の方が優遇されている	1,280	18.6
どちらかと言えば男性の方が優遇されている	3,142	45.7
平等	906	13.2
どちらかと言えば女性の方が優遇されている	601	8.7
女性の方が優遇されている	211	3.1
わからない	736	10.7
総 数	6,876	100.0

VIII-31) 現在の職場において、男女の地位は平等になっていると思いますか

女性	実数	比率
男性	82	12.5
どちらかと言えば男性	144	22.0
平等	280	42.7
どちらかと言えば女性	30	4.6
女性	9	1.4
わからない	77	11.7
無回答	34	5.2
総 数	656	100.0

男性	実数	比率
男性の方が優遇されている	540	7.8
どちらかと言えば男性の方が優遇されている	1,722	25.0
平等	2,985	43.3
どちらかと言えば女性の方が優遇されている	775	11.2
女性の方が優遇されている	242	3.5
わからない	630	9.1
総 数	6,894	100.0

Ⅷ－32) 現在の職場における女性医師の支援について

女性	実数	比率
十分	151	23.0
やや不十分	167	25.5
不十分	156	23.8
わからない	113	17.2
その他	26	4.0
無回答	43	6.6
総 数	656	100.0

男性	実数	比率
十分である	1,276	18.5
やや不十分である	2,238	32.4
不十分である	1,733	25.1
わからない	1,566	22.7
その他	88	1.3
総 数	6,901	100.0

◎本調査独自の設問である下記については、比較ができないため掲載しておりません。

- ・Ⅱ－４－１) 病院のある二次保健医療圏
- ・Ⅳ ハラスメントについて（すべて）
- ・Ⅶ－29) 育児に関する行政サービスについて
- ・Ⅷ－33) 男女共同参画とはどちらの社会を目指していると思いますか

平成27年2月実施

4) 勤務病院の規模

1. 500床以上 2. 200～499床 3. 100～199床 4. 100床未満

5. 診療所（ 有床 ・ 無床 ）

4-1) 病院のある
二次保健医療圏

1. 千葉 2. 東葛南部 3. 東葛北部 4. 印旛 5. 香取海匝

6. 山武長生夷隅 7. 安房 8. 君津 9. 市原

(※6頁地図を参考にしてください。)

5) 診療科

1. 内科(サブスペシャリティー：) 2. 精神科

3. 産婦人科 4. 泌尿器科 5. 麻酔科 6. 救急科

7. 小児科 8. 外科(サブスペシャリティー：)

9. 眼科 10. 脳神経外科 11. 病理 12. 形成外科

13. 皮膚科 14. 整形外科 15. 耳鼻咽喉科 16. 放射線科

17. 臨床検査 18. リハビリテーション 19. 総合診療科

20. 研修期間中 21. その他（ ）

6) 役職

1. 管理者 2. 診療部長 3. 指導的な立場の職（ ）

4. 役職なし 5. 臨床研修医 6. その他（ ）

7) 当直

1. 週2回以上 2. 週1回 3. 月1回～週1回未満 4. 当直なし

8) 出勤・帰宅時間

出勤（自宅を出る）時間 _____：

帰宅（自宅に到着する）時間 _____：

※既婚・未婚で配偶者・パートナーと同居している方

配偶者・パートナーの出勤（自宅を出る）時間 _____：

配偶者・パートナーの帰宅（自宅に到着する）時間 _____：

Ⅲワークライフバランスについて

誰もが仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、さまざまな活動を自ら希望するバランスで展開できる状態（ワークライフバランス）の推進が社会の課題となっています。ご自身のワークライフバランスについて該当するものを選択してください。

- 9) 現在のご自身の ワークライフバランス

- 10) 上記で2と答えた方
- 1.家事や育児の負担が大きく、身体的にきつい
 - 2.家事や育児の負担が大きく、仕事に支障がある
 - 3.仕事の比重が重く、家事や育児には関われない
 - 4.その他 ()

- 11) ワークライフバランス 1.家族の協力 2.お金 3.職場の上司の理解 4.職場の仲間の理解
をとるために必要だと思う
ものは(複数回答可) 5.その他 ()

既婚・未婚で配偶者・パートナーと同居している方はお答えください

- 12) ワークライフバランス 1.普段から話し合っており、解決策が出てくる
について 2.話し合っているが、言い争いになることが多い
3.話さない

IVハラスメントについてお答えください。

- 13) あなたはハラスメントを受けて嫌な思いをしたことがありますか？
1. 経験がない 2. 経験がある

- 14) 具体的には次のどのような行為ですか？（複数回答）
- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1. セクシャルハラスメント | （性的嫌がらせ 望まない性的言動 など） |
| 2. パワーハラスメント | （仕事の上下関係を利用した嫌がらせ など） |
| 3. アカデミックハラスメント | （教育・研究現場での嫌がらせ など） |
| 4. マタニティーハラスメント | （妊娠したことに関する嫌がらせ など） |
| 5. その他（ | ） |

- 15) 経験がある方でここ5年以内に一番深刻だったものについてお答えください。
- | | | | | |
|--------|-------|-------|--------|-------|
| 相手側の性別 | 1. 男性 | 2. 女性 | | |
| 立場 | 1. 上司 | 2. 同僚 | 3. 関係者 | 4. 部下 |

- 16) ハラスメントにより、あなたが行った対応・受けた影響など具体的にお知らせください。（自由記載）

- 17) あなたはDV（家庭内暴力・デートDV含）を受けたことがありますか？
- 1.経験がない 2.経験がある

- 18) DVによりあなたが行った対応・受けた影響など 具体的にお知らせください。(自由記載)

--

V 家庭での家事分担について：該当するものを1つ選び○をつけてください。

おひとりの方は「A.理想」のみお答えください。

	A.理想				B.現実			
	男性の方が多い	女性の方が多い	男女同じ程度	その他	男性の方が多い	女性の方が多い	男女同じ程度	その他
食事の仕度	1	2	3	4 ()	1	2	3	4 ()
食事の片付け	1	2	3	4 ()	1	2	3	4 ()
掃除	1	2	3	4 ()	1	2	3	4 ()
ゴミだし	1	2	3	4 ()	1	2	3	4 ()
洗濯	1	2	3	4 ()	1	2	3	4 ()
食品・日用品の買い物	1	2	3	4 ()	1	2	3	4 ()
家の修繕・修理	1	2	3	4 ()	1	2	3	4 ()
家計管理	1	2	3	4 ()	1	2	3	4 ()
子どもの世話・指導	1	2	3	4 ()	1	2	3	4 ()
乳幼児の世話	1	2	3	4 ()	1	2	3	4 ()
保育園の送り迎え	1	2	3	4 ()	1	2	3	4 ()
親の世話	1	2	3	4 ()	1	2	3	4 ()
学校等の役員	1	2	3	4 ()	1	2	3	4 ()
地域の役員等	1	2	3	4 ()	1	2	3	4 ()
その他 ※分担していることが あれば具体的に ご記入ください								

既婚・未婚で配偶者、パートナーと同居の方はお答えください。

19) 家事の役割分担について 1.十分やっていると思う 2.まだ足りないと思う 3.まったくしていないと思う

既婚・未婚で配偶者、パートナーと同居の方はお答えください。

20) 家庭における役割について 1.現状のままで良いと思う 2.改善した方がよいと思う

VI 介護について：介護をしている方はお答えください。

21) どなたを介護していますか 1.自分の親 2.配偶者・パートナーの親 3.その他 ()

22) だれが介護をしていますか 1.ご自身 2.配偶者・パートナー 3.その他 ()

23) 介護に要する時間 週約 () 時間

Ⅶ 育児について：家族に未就学児がいる方はお答えください。

- 24) お子さんの保育状況
1. 保育園に預けている
 2. 自宅で配偶者・パートナーがみている
 3. 自宅でベビーシッターを利用している
 4. 自宅で配偶者・パートナー以外の家族がみている
- 25) 保育園について
(上記で1の方)
1. 院内の保育園
 2. 院外の認可保育園
 3. 院外の無認可保育園
- 26) 育児休暇について
1. 育児休暇をとった 期間 (日)
 2. 育児休暇をとらなかった
- 27) 育児休暇の
取得について
1. 自分の意志で取得した
 2. 配偶者・パートナーに頼まれて取得を決めた
 3. 配偶者・パートナーに頼まれたが取得しなかった
 4. 希望はあったが職場に言い出せなかった
 5. 考えたことがなかった
- 28) 育児の分担について
1. 充実していると思う
 2. まだ足りないと思う
 3. まったくしていないと思う
- 29) 育児に関する
行政サービスについて
- ① ファミリーサポートについて
1. 利用したことがある
 2. 利用したことはない
 3. 住んでいる市町村にはないサービス
 4. 事業自体知らない
- ② 保育ママについて
1. 利用したことがある
 2. 利用したことはない
 3. 住んでいる市町村にはないサービス
 4. 事業自体知らない
- ③ ベビーシッターについて
(＝エンゼルヘルパーなど)
1. 利用したことがある
 2. 利用したことはない
 3. 住んでいる市町村にはないサービス
 4. 事業自体知らない
- ④ 前述の行政サービス
について
- ※困ったこと、要望・希望など、以下に記入ください。

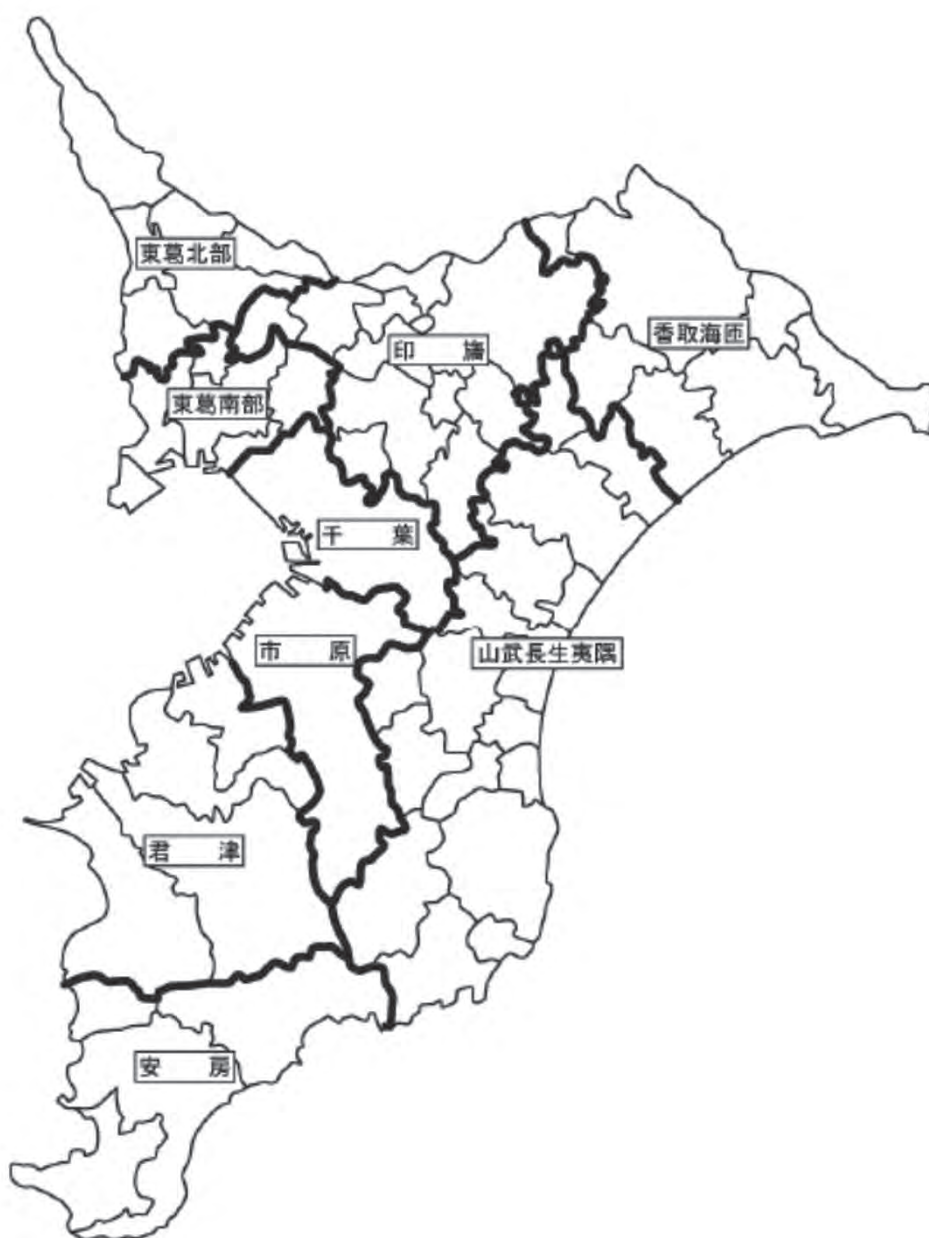
Ⅷ男女共同参画社会に関する意識について

- 30) 社会全体において、男女の地位は平等に
なっていると思いますか
- 1.男性の方が優遇されている
 - 2.どちらかと言えば男性の方が優遇されている
 - 3.平等
 - 4.どちらかと言えば女性の方が優遇されている
 - 5.女性の方が優遇されている
 - 6.わからない
- 31) 現在の職場において、男女の地位は平等に
なっていると思いますか
- 1.男性の方が優遇されている
 - 2.どちらかと言えば男性の方が優遇されている
 - 3.平等
 - 4.どちらかと言えば女性の方が優遇されている
 - 5.女性の方が優遇されている
 - 6.わからない
- 32) 現在の職場における
女性医師の支援について
- 1.十分である
 - 2.やや不十分である
 - 3.不十分である
 - 4.わからない
 - 5.その他 ()
- 33) 男女共同参画とはどちらの社会を目指している
と思いますか また、ご自身の意見があれば。
- 1.男女の性差は抜きにして一人の人としての平等を目指すべき
 - 2.男女の性差を認めて特性を生かせる社会を作っていくべき
 - 3.その他 ()

X自由記載：今回のアンケート内容全般に関して

(これからへのアドバイス等もぜひご記入ください。育児、社会制度、医師会へメッセージなどなんでも結構です。)

※最後までご記入いただきありがとうございました。添付の返信用封筒により、千葉県医師会宛ご郵送ください。
アンケート結果は10月頃、千葉県医師会雑誌やホームページに掲載させていただく予定です。





公益社団法人 千葉県医師会